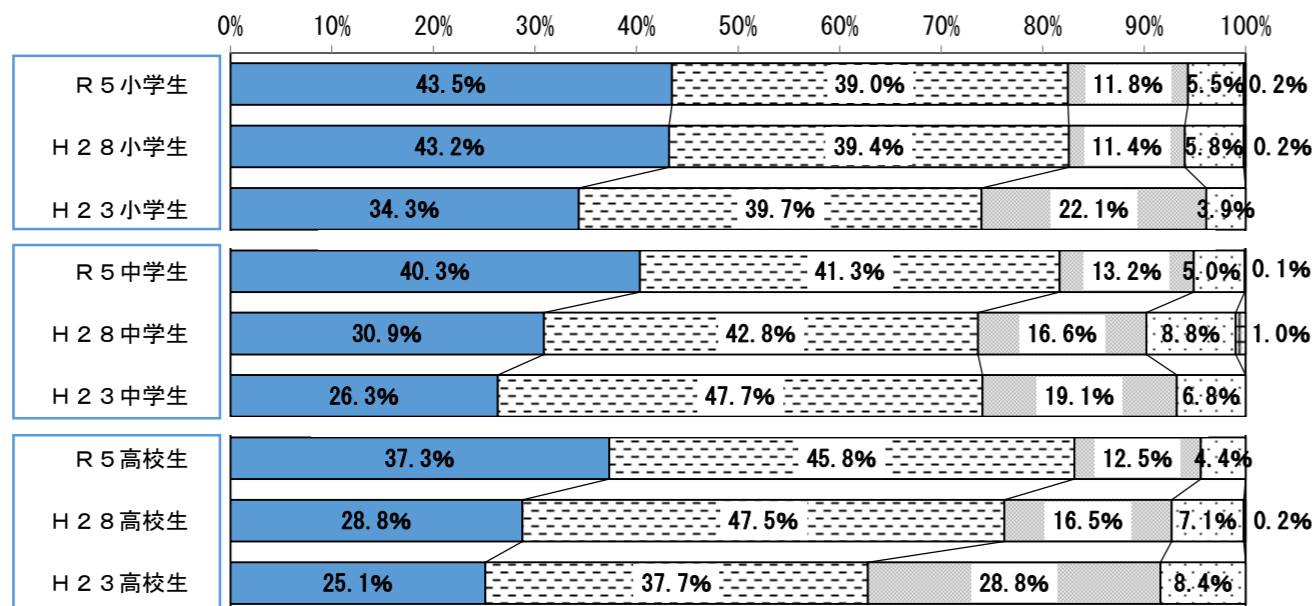


(1) 子どもの人権感覚

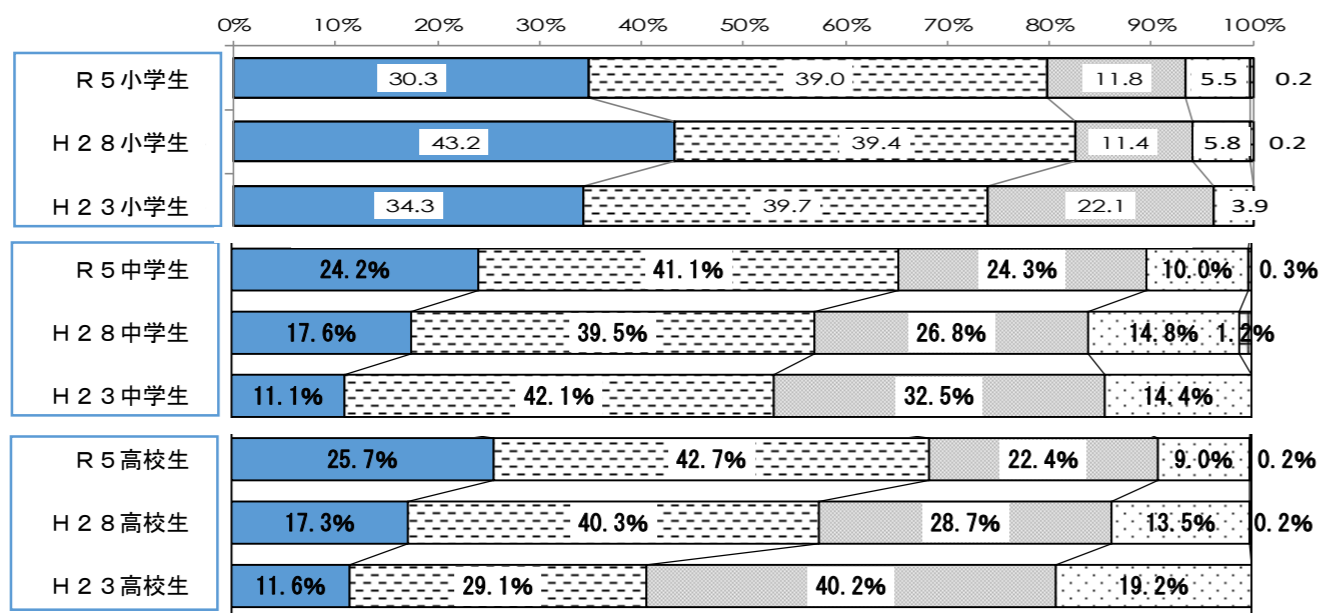
① 自尊感情等

問1 自分にはよいところがあると思いますか



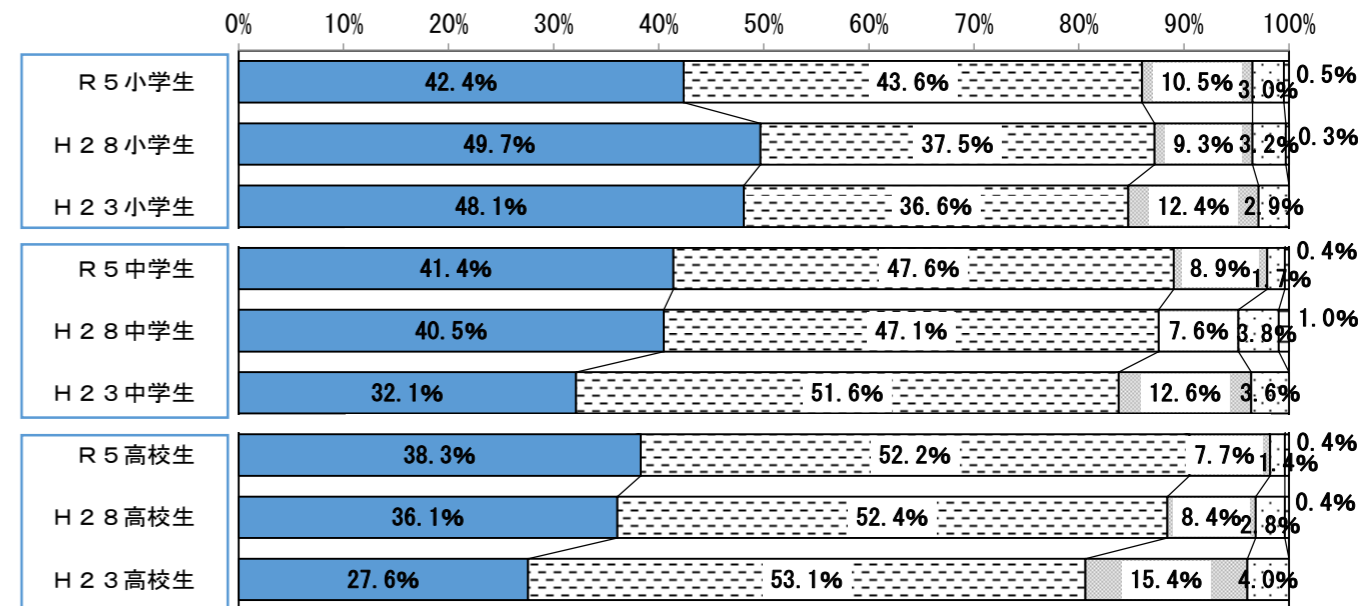
■・思う □・まあまあ思う □・あまり思わない □・思わない □・回答なし
 ・どちらかと言えば思う・どちらかと言えば思わない

問2 自分のことが好きですか



■・思う □・まあまあ思う □・あまり思わない □・思わない □・回答なし
 ・どちらかと言えば好き・どちらかと言えば好きではない

問3 難しいことでも自分で解決しようと思いますか



■・思う □・まあまあ思う □・あまり思わない □・思わない □・回答なし
 ・どちらかと言えば思う・どちらかと言えば思わない

【読み取れる傾向と考察】

- ・自尊感情や難しいことへの挑戦について、経年で見ると、中学生、高校生の肯定的回答の割合が増加している。小学生の肯定的回答の割合は元々高く、前回調査（H28年）からほぼ横ばいの状況である。
- ・小学生が横ばいになったことについては、新型コロナにより行事や体験活動が制限されたことが、低年齢層により強く影響している可能性が考えられる。
- ・中学生、高校生の肯定的回答の割合が増加した背景として、生徒全員との定期的な面談による生徒理解や相談支援体制の充実が図られ、生徒に直接よさを伝えたり、それに気付かせる機会が増えたりしたことが考えられる。

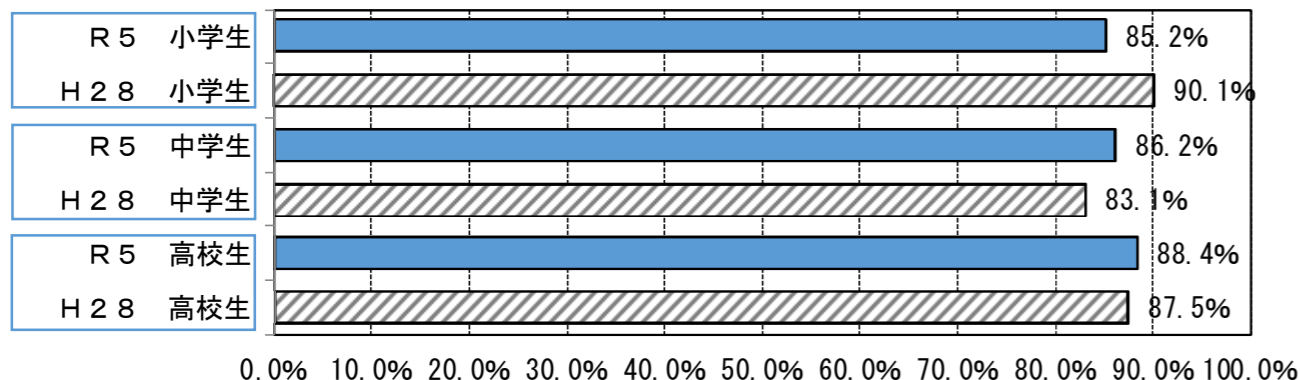
【関連する事業・取組】

- ・園内研修支援事業（幼保支援課）
- ・親育ち支援啓発事業（幼保支援課）
- ・基本研修（幼保支援課・教育センター）
- ・道徳教育協働推進プラン（小中学校課）
- ・ソーシャルスキルアップ事業（高等学校課）
- ・心の教育センター相談支援事業（心の教育センター）
- ・生徒指導主事会（担当者会）（人権教育・児童生徒課）
- ・社会教育主事等研修（人権教育・児童生徒課）
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等活用事業（人権教育・児童生徒課）
- ・校内支援会サポート事業（心の教育センター）
- ・個別最適な支援をつなぐ校区内連携事業（人権教育・児童生徒課）
- ・高等学校における特別支援教育の推進（特別支援教育課）

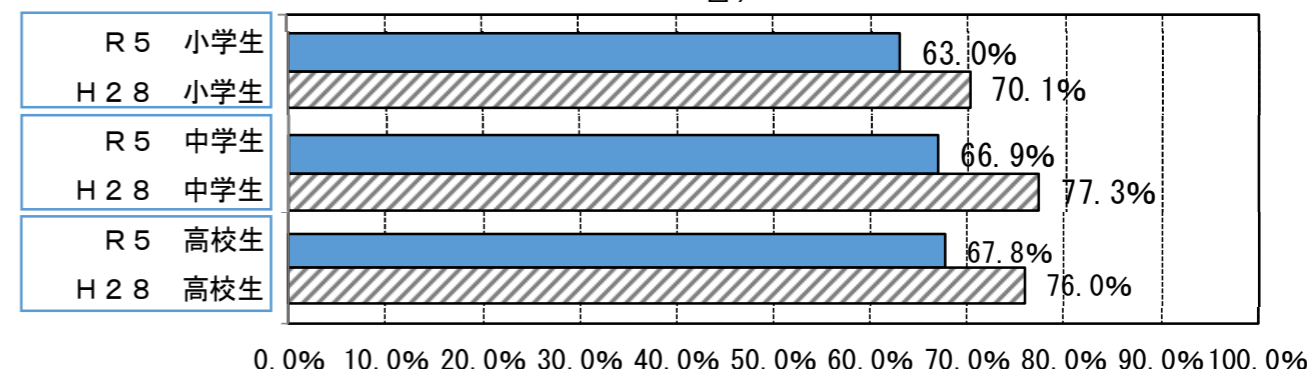
②「親」「友だち」「学校の先生」との関係

小学生用・中高生用

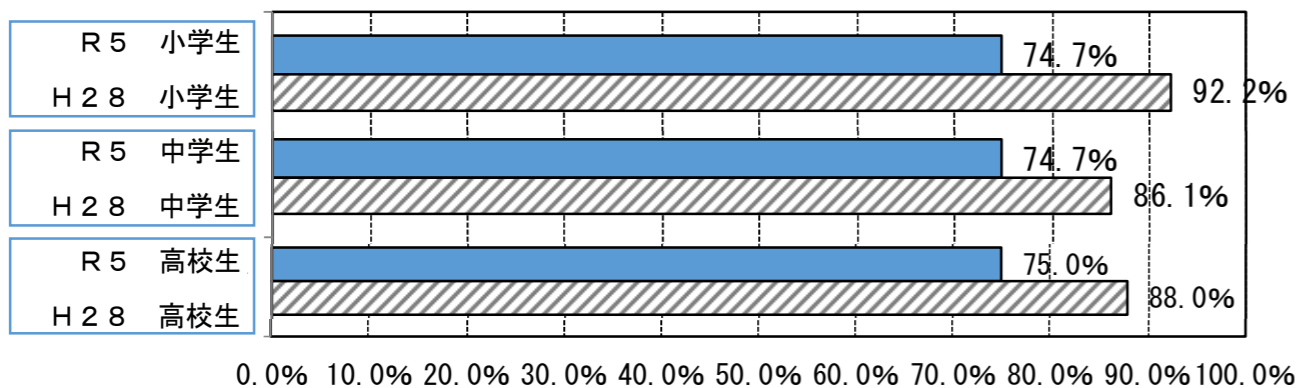
問8 周りの人から自分が大切にされていると思いますか
「思う」「どちらかと言えば思う」の回答者の計



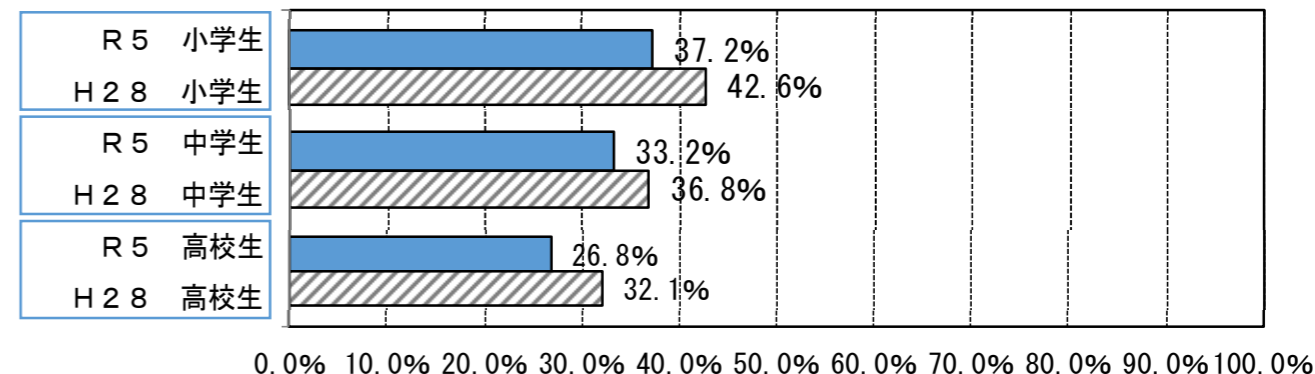
問9 周りの人から大切にされていると「思う」「どちらかと言えば思う」人の中の「友だち」選択者数（複数回答）（回答総数に対する割合）



問9 周りの人から大切にされていると「思う」「どちらかと言えば思う」人の中の「親」選択者数（複数回答）（回答総数に対する割合）



問9 周りの人から大切にされていると「思う」「どちらかと言えば思う」人の中の「学校の先生」選択者数（複数回答）（回答総数に対する割合）



【読み取れる傾向と考察】

- ・(問8)「周りの人から大切にされていると思う」小学生の肯定的回答の割合は減少している。
- ・(問9)「周りの人」のうち「親」「友だち」「学校の先生」を選択した児童生徒の割合が減少している。これは、スマートフォン、インターネットの普及やコロナ禍の影響により、家庭での親子の関わりや人とのコミュニケーションのあり方に変化があったことが考えられる。
- ・児童生徒が、自分が大切にされていると感じられるような親子の関係づくりや親の関わり方について、学校や地域における働きかけが必要である。
- ・今後さらに児童生徒の自尊感情を育むため、児童生徒理解や個々の子どもの実態把握に基づいた支援等の充実が必要である。

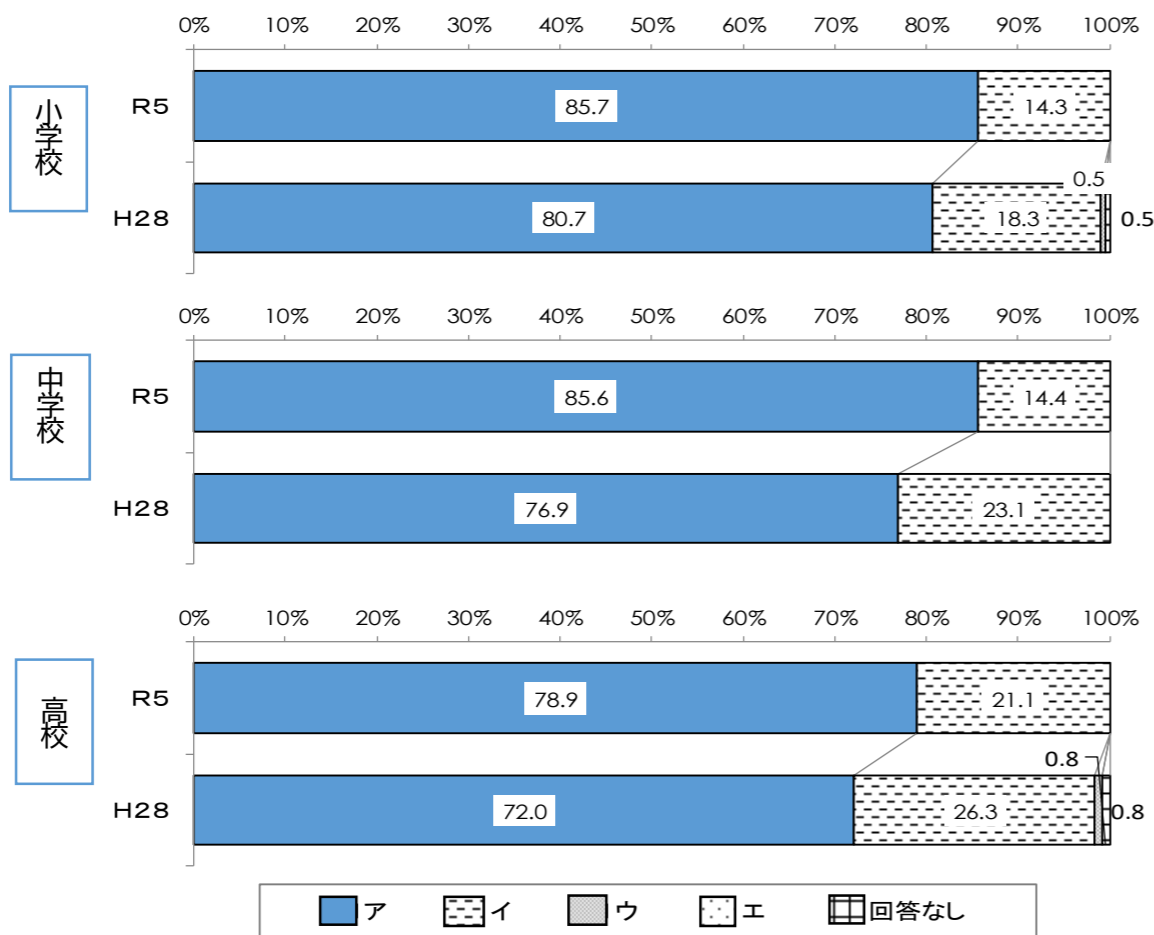
【関連する事業・取組】

- ・園内研修支援事業（幼保支援課）
- ・親育ち支援啓発事業（幼保支援課）
- ・基本研修（幼保支援課・教育センター）
- ・道徳教育協働推進プラン（小中学校課）
- ・ソーシャルスキルアップ事業（高等学校課）
- ・心の教育センター相談支援事業（心の教育センター）
- ・生徒指導主事会（担当者会）（人権教育・児童生徒課）
- ・社会教育主事等研修（人権教育・児童生徒課）
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等活用事業（人権教育・児童生徒課）
- ・校内支援会サポート事業（心の教育センター）
- ・個別最適な支援をつなぐ校区内連携事業（人権教育・児童生徒課）
- ・高等学校における特別支援教育の推進（特別支援教育課）

学校用

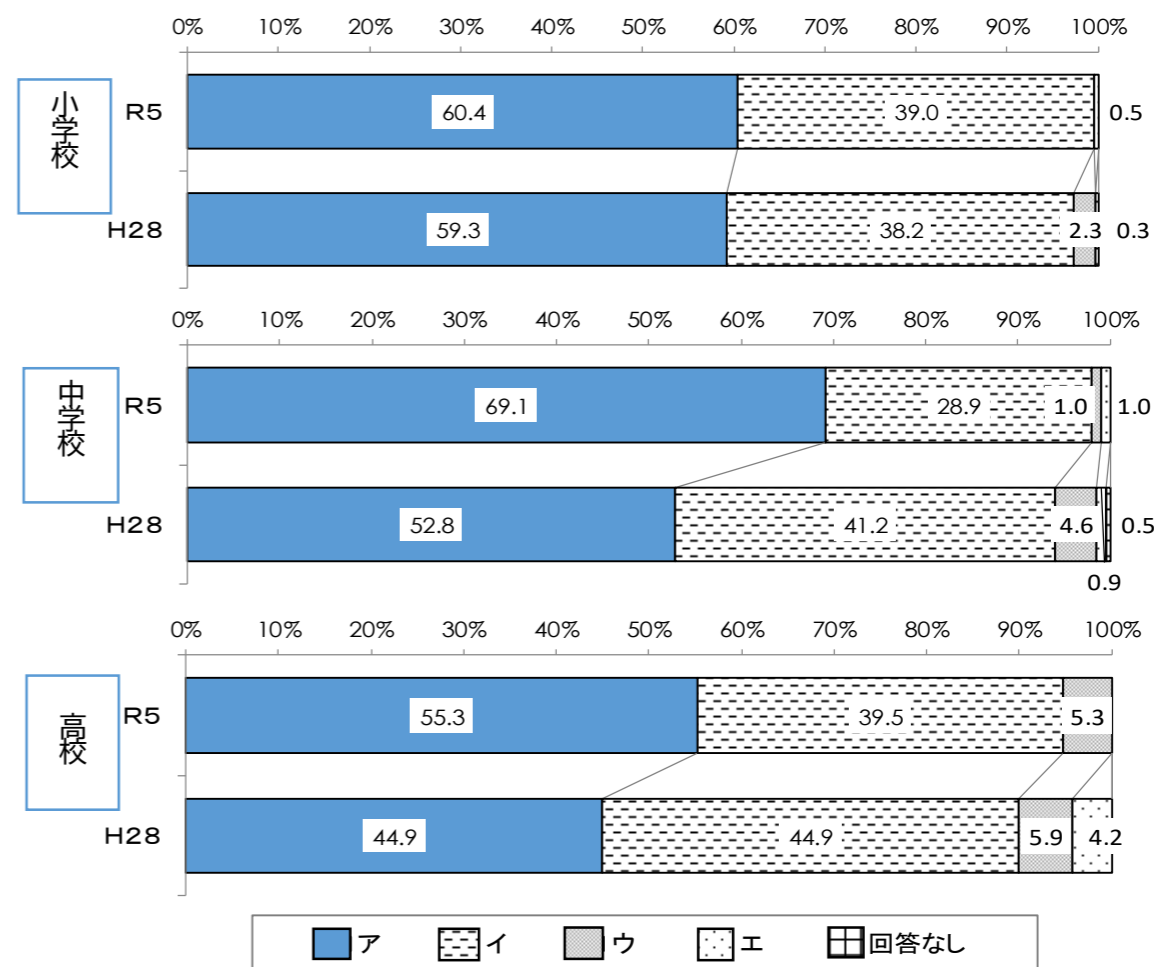
問2 発達や成長を支える発達支持的な生徒指導を通して、児童生徒一人一人が自己実現できるように取り組むとともに、児童生徒同士が良さを認め合い、支え合える人間関係を築くことができるように取り組んでいますか。

ア 取り組んでいる
 イ どちらかと言えば取り組んでいる
 ウ どちらかと言えば取り組めていない
 エ 取り組めていない



問23 人権が尊重される環境づくりに向けて、児童生徒への理解を深め、児童生徒の捉え方や、言葉掛け等児童生徒とのかかわり方についての研修を行っていますか。

ア 行っている
 イ どちらかと言えば行っている
 ウ どちらかと言えば行っていない
 エ 行っていない



【読み取れる傾向と考察】

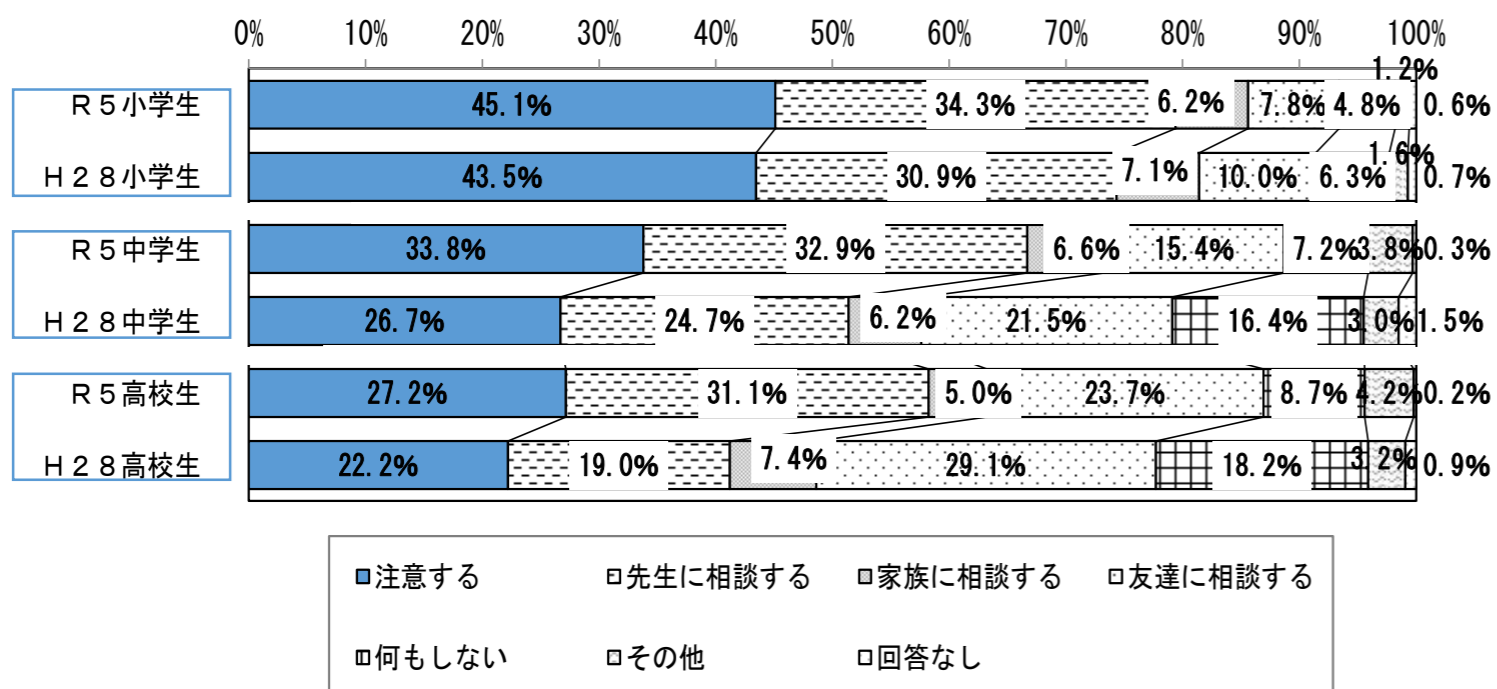
- ・(問2) 発達支持的な生徒指導や、(問23) 人権が尊重される環境づくりに向けた研修については、小学校・中学校・高校ともに取り組む学校の割合が増加している。
- ・自尊感情の肯定的な回答の増加には、発達支持的生徒指導を意識した授業づくりや、良さを認め合い支え合える人間関係の構築、児童生徒理解や関わり方についての学校の取組が効果として表れていると考えられる。

【関連する事業・取組】

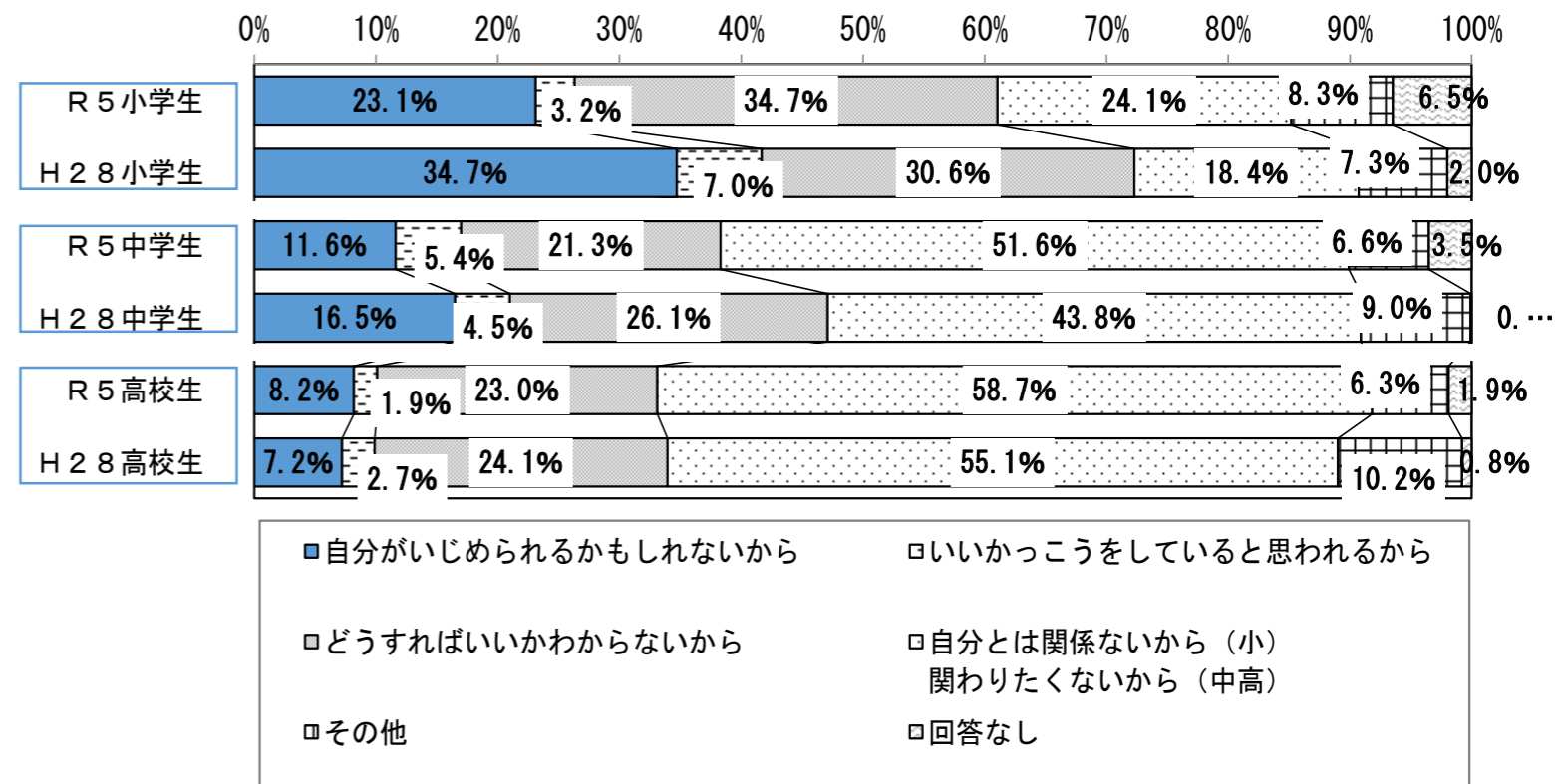
- ・園内研修支援事業（幼保支援課）
- ・親育ち支援啓発事業（幼保支援課）
- ・基本研修（幼保支援課・教育センター）
- ・道徳教育協働推進プラン（小中学校課）
- ・ソーシャルスキルアップ事業（高等学校課）
- ・心の教育センター相談支援事業（心の教育センター）
- ・生徒指導主事会（担当者会）（人権教育・児童生徒課）
- ・社会教育主事等研修（人権教育・児童生徒課）
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等活用事業（人権教育・児童生徒課）
- ・校内支援会サポート事業（心の教育センター）
- ・個別最適な支援をつなぐ校区内連携事業（人権教育・児童生徒課）
- ・高等学校における特別支援教育の推進（特別支援教育課）

③いじめを見た時の行動

問11 いじめをしている場面を見た時、どんな行動をしたいと思いますか



問12 11の質問で、「何もしない」を選んだ人の理由



【読み取れる傾向と考察】

- ・(問11) いじめを見た時の行動については、小学生・中学生・高校生ともに、「注意をする」「先生に相談する」の回答の割合が大幅に増加し、「何もしない」の回答の割合が減少した。しかし、高年齢の校種ほど「何もしない」という回答の割合は大きい。
- ・(問12) 「何もしない」理由としては、小学生では「自分とは関係ないから」、中高生では「関わりたくないから」という回答の割合がそれぞれ増加しており、高年齢の校種ほど割合が大きい。
- ・いじめをしている場面を見た時、高年齢の校種ほど「注意をする」という回答の割合が小さく、「何もしない」という回答の割合が増加していることについては、何でも言い合える人間関係や集団づくりに課題があると考えられる。
- ・いじめについての学習機会の確保や学習におけるさまざまな気づきを、行動に結びつける経験を充実させることが必要と考える。

【関連する事業・取組】

- ・道徳教育協働推進プラン（小中学校課）
- ・ソーシャルスキルアップ事業（高等学校課）
- ・いじめ防止対策総合推進事業（人権教育・児童生徒課）
- ・生徒指導主事会（担当者会）（人権教育・児童生徒課）

学校用

問3 予防的な視点に立ち、いじめ、不登校などの課題を解決できるよう、人権が尊重された学校経営・学級経営・生徒指導・学習指導に取り組んでいますか。

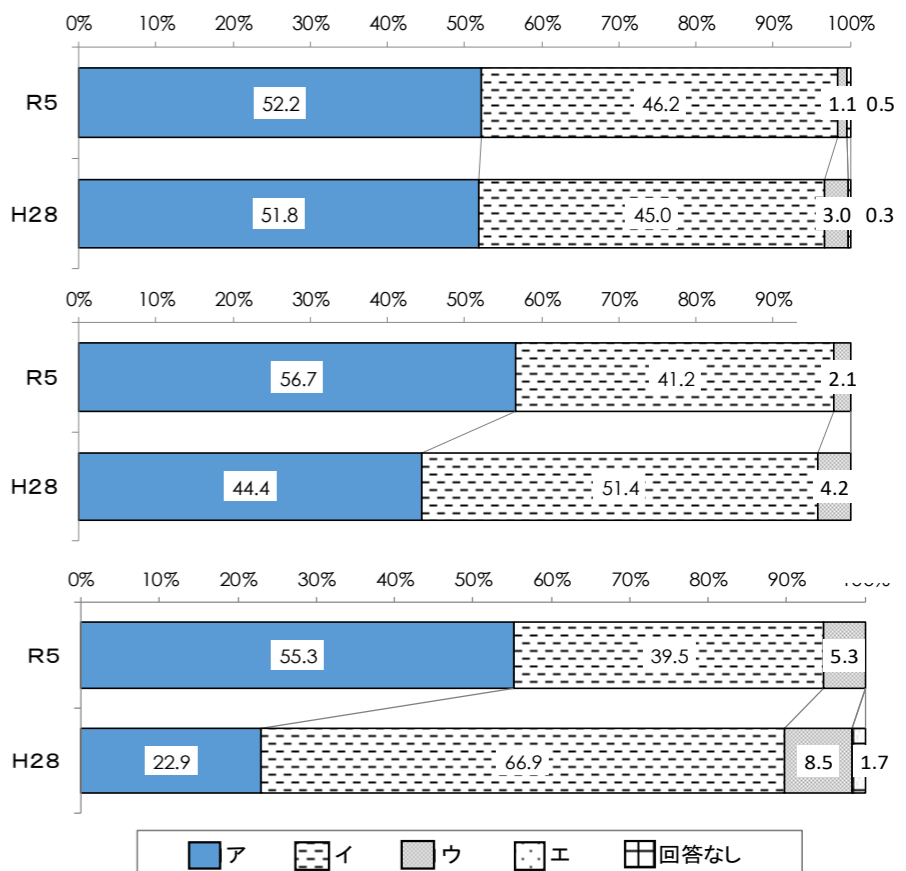
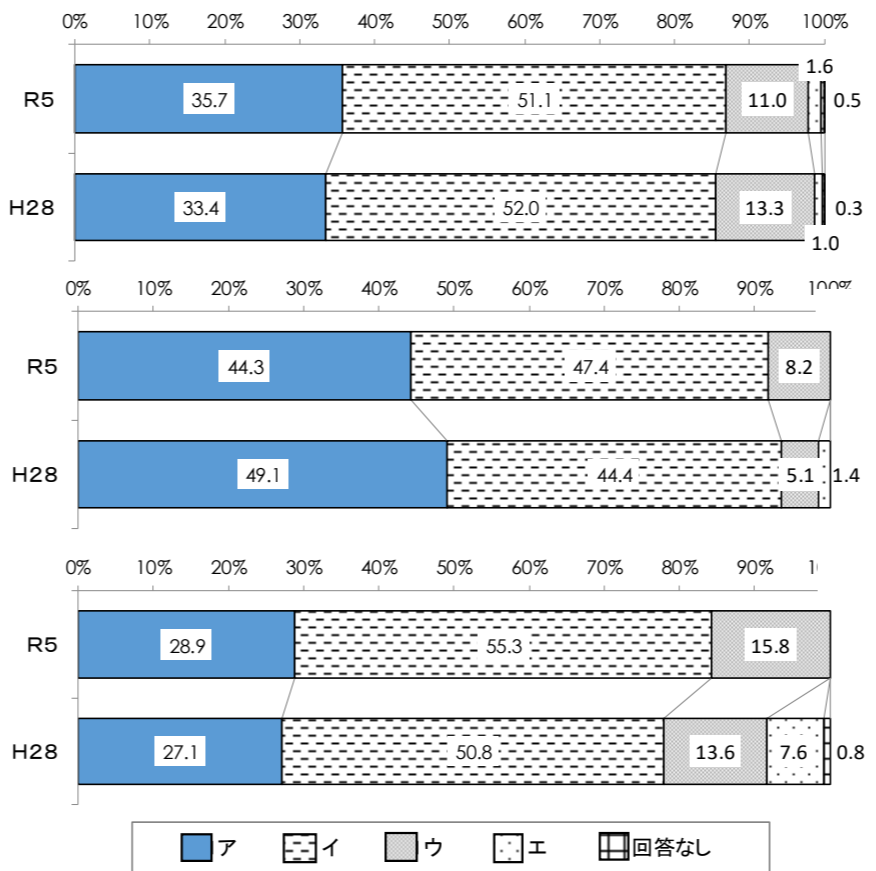
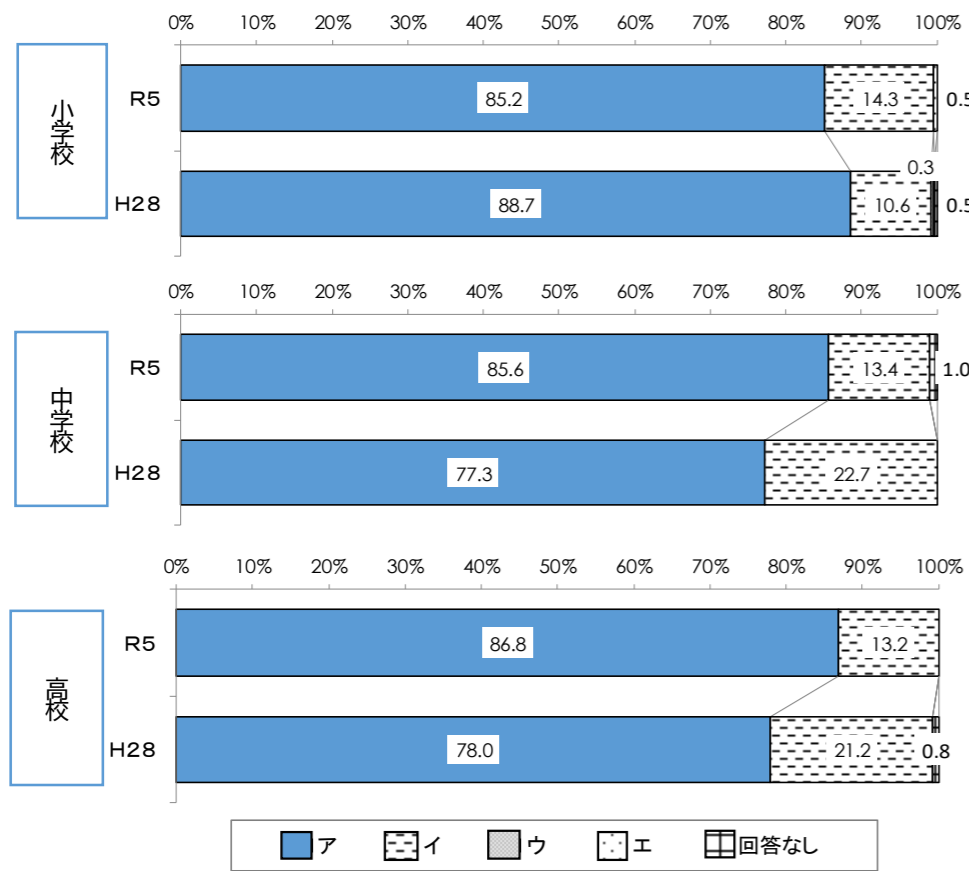
ア 取り組んでいる
 イ どちらかと言えば取り組んでいる
 ウ どちらかと言えば取り組めていない
 エ 取り組めていない

問10 いじめやインターネットにかかわる問題を、児童生徒が自分事として解決する力を育むため、児童会や生徒会活動の充実を図っていますか。

ア 図っている
 イ どちらかと言えば図っている
 ウ どちらかと言えば図ることができていない
 エ 図ることができていない

問13 児童生徒に権利と責任を理解させることを通して、児童生徒が主体的にいじめや差別をなくしていく力を育成していますか。

ア 育成している
 イ どちらかと言えば育成している
 ウ どちらかと言えば育成できていない
 エ 育成できていない



【読み取れる傾向と考察】

- ・(問3) 学校における児童生徒がいじめを解決できるような取組について、中学校と高校で強肯定の割合が増えている。
- ・(問10) いじめやインターネットにかかわる問題を解決するため、児童会や生徒会活動の充実を図っている学校について、中学校では肯定的回答の割合が前回調査より減少している。
- ・(問13) 全ての校種において、いじめや差別をなくしていく力を「育成している」と回答した学校の割合が増加している。
- ・特別活動や学校行事で、よりよい人間関係づくり(仲間づくりなど)に積極的に取り組んでいることが要因だと考えられる。また、こうした取組は、児童生徒がいじめをしている場面を見た時、「注意をする」「先生に相談する」という回答の割合の増加に影響していると考えられる。
- ・いじめが起きてからの対処的な指導だけでなく、子ども全員に対して、いじめ防止の学習プログラムを実施する学校が増えたことも、中学校と高校で強肯定の割合が増えている要因と考えられる。

【関連する事業・取組】

- ・道徳教育協働推進プラン(小中学校課)
- ・ソーシャルスキルアップ事業(高等学校課)
- ・いじめ防止対策総合推進事業(人権教育・児童生徒課)
- ・生徒指導主事会(担当者会)(人権教育・児童生徒課)

(2) 学校教育における人権教育

①人権学習や人権課題への取組に関する考え方

次の対象別項目の結果を一つのグラフに示しています。

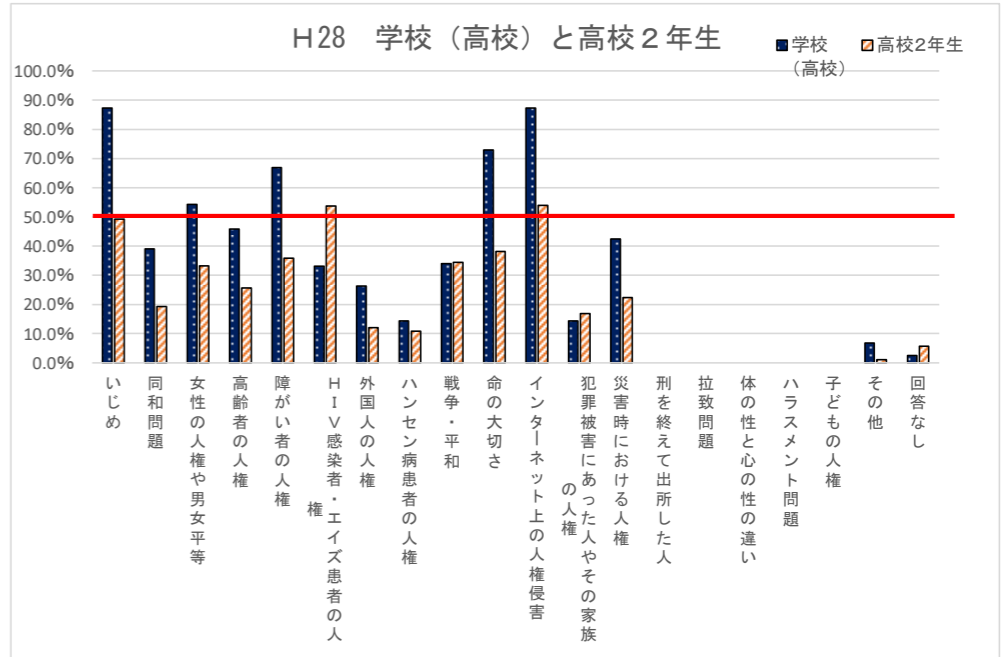
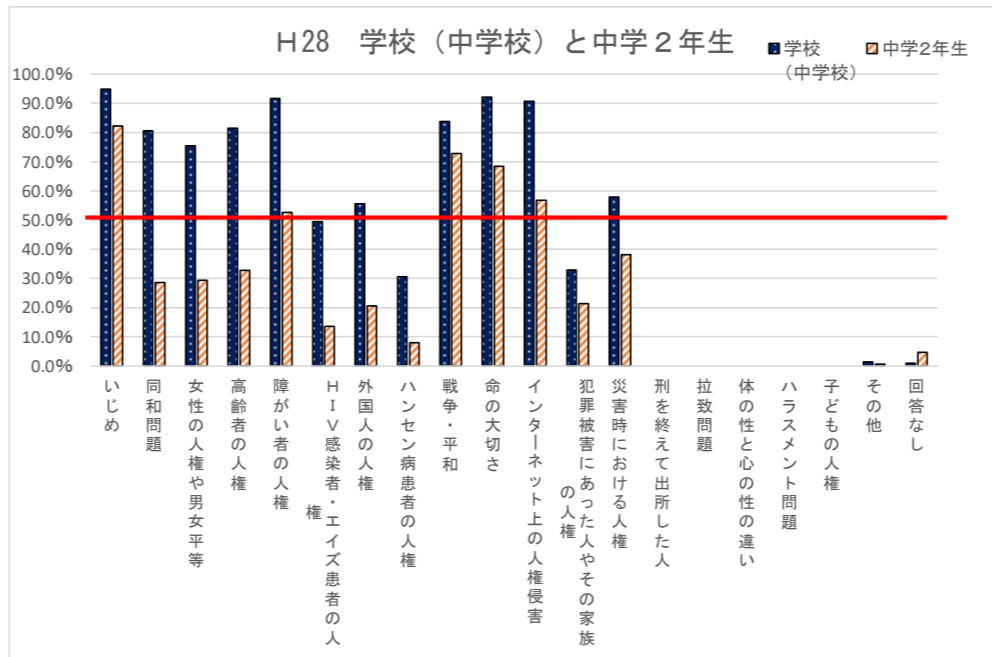
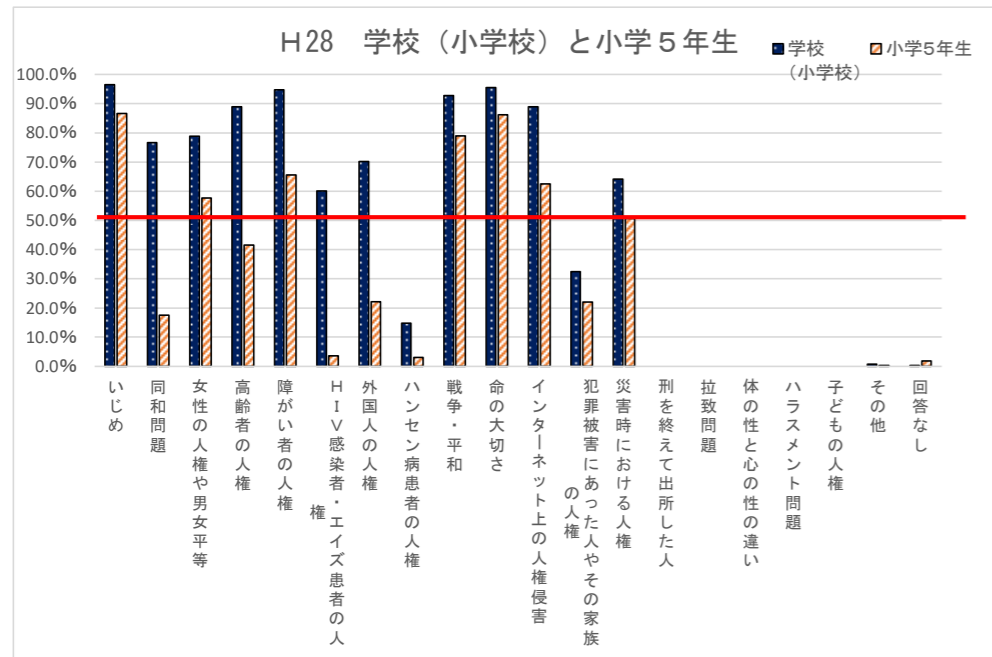
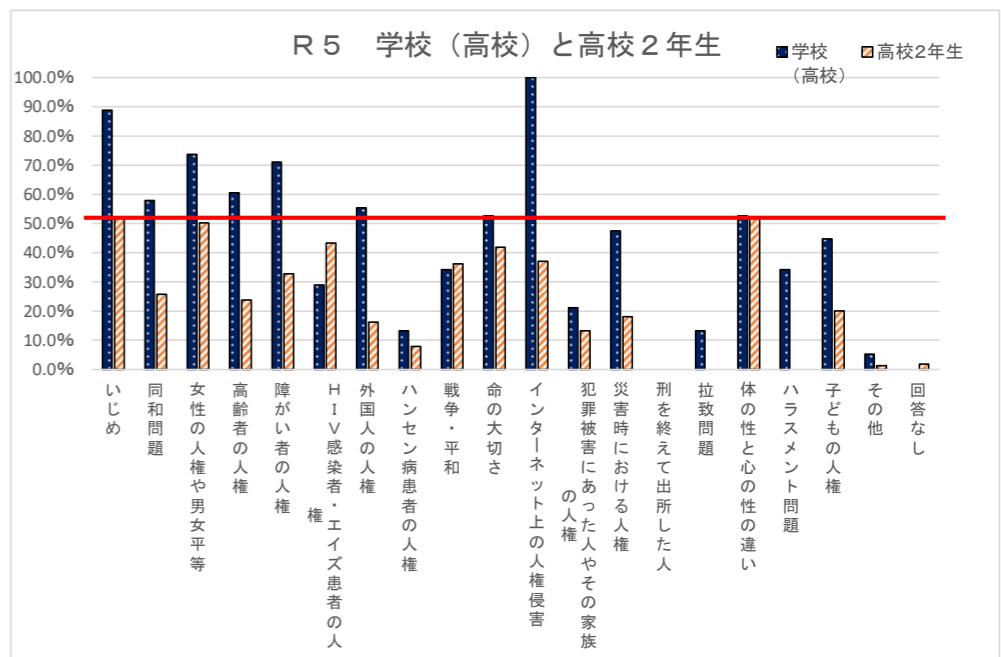
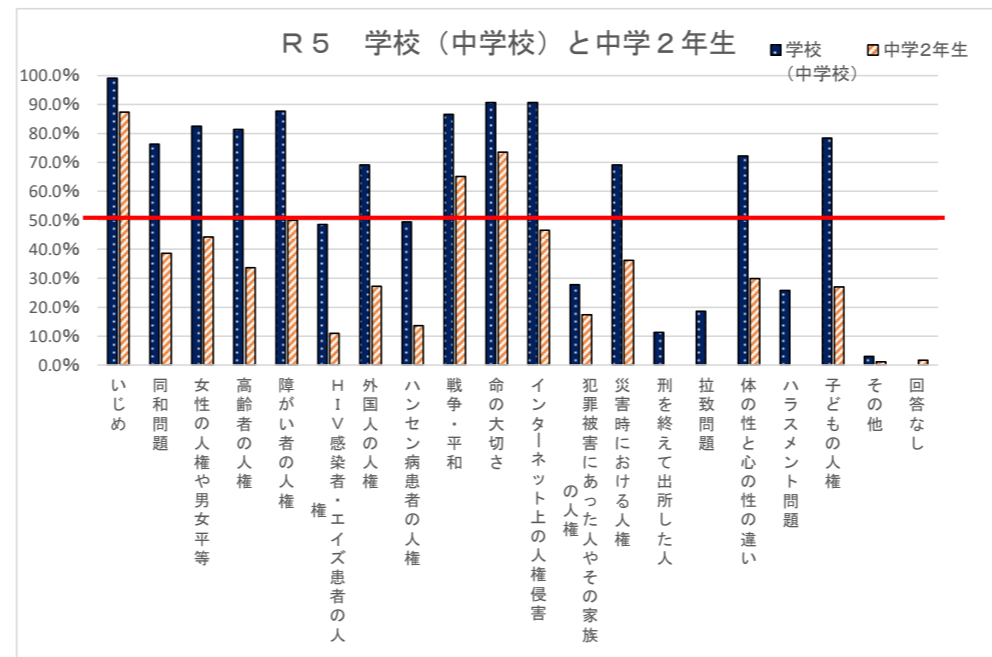
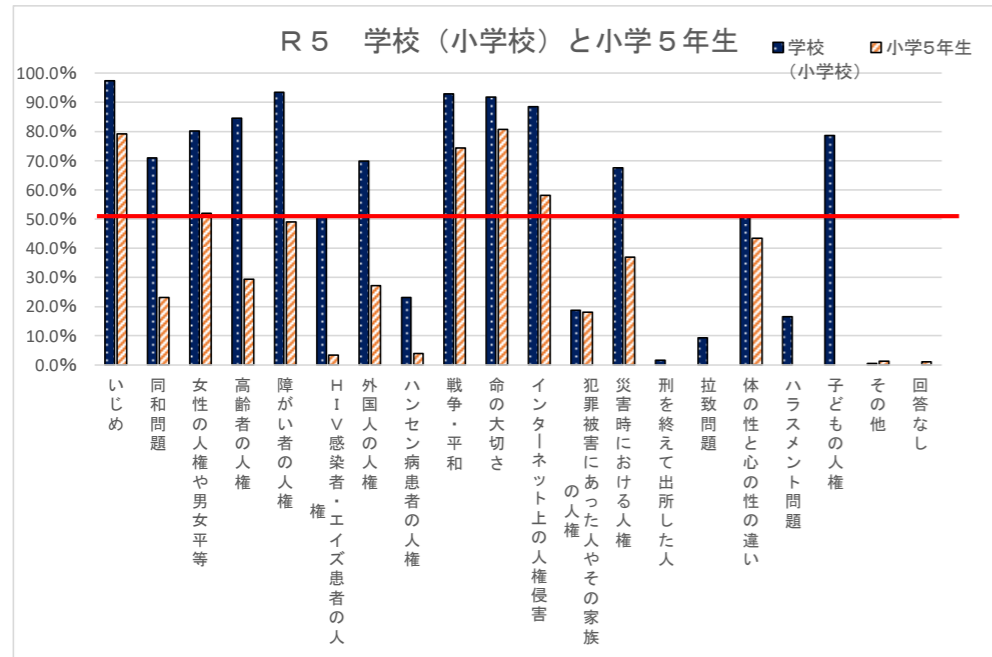
○小学生用・中高生用 問21「今まで学校の授業で学習したものを選んでください」

○学校用 問17「現在、学校で指導している人権学習（個別の人権課題）の取組内容について選んでください」

※児童生徒の回答は、小学5年生、中学2年生、高校2年生の時点の学習経験に基づいており、それぞれの学校の最終学年で実施されている人権学習内容は反映されていません。

※「刑を終えて出所した人」、「拉致問題」、「体の性と心の性の違い」、「ハラスメント問題」、「子どもの人権」は、今回調査で新たに追加した選択項目のため、平成28年度のグラフでは値は表示されていません。

「刑を終えて出所した人」、「拉致問題」、「ハラスメント問題」は、小学生用・中高生用の設問では選択項目に含まれていないため、値は表示されていません。



【読み取れる傾向と考察】

- ・それぞれの人権課題について、学校が「指導している」と回答した割合は増加しており、児童生徒が「学習した」と認識している割合も増加している。
- ・小中学校では、ほとんどの人権課題について、5割以上の学校が指導している。高校では9つの人権課題について5割以上の学校が指導しており、前回調査から4つ増加した。
- ・「同和問題」「高齢者」「HIV感染者・エイズ患者の権利」「外国人の権利」「ハンセン病元患者の権利」については、学校の「指導している」という認識と児童生徒の「学習した」という認識には大きな差がある。
- ・教職員が教科等における人権学習の場面を意識して教えるとともに、児童生徒が自分の生活と関連づけて考えられるよう、学習時間の確保や内容の充実を図る必要がある。
- ・児童生徒の発達段階によっては、授業や教科書で人権課題に触れても、児童生徒は歴史上の出来事や社会問題の一つとして捉えており、設問の回答に結びついていない可能性も考えられる。次回から設問に工夫が必要である。

【関連する事業・取組】

- ・人権教育研究指定校事業（人権教育・児童生徒課）
- ・特別支援教育セミナー（教育センター）
- ・いじめ防止対策総合推進事業（人権教育・児童生徒課）
- ・人権教育主任連絡協議会等（人権教育・児童生徒課）
- ・防災教育推進事業（学校安全対策課）
- ・人権学習学校支援事業（人権教育・児童生徒課）
- ・管理職等育成プログラム（教育センター）
- ・若年教員育成プログラム（教育センター）
- ・中堅教諭等資質向上研修（教育センター）
- ・いのちの教育プロジェクト（保健体育課）

小学生用・中学生用 問21 「今まで学校の授業で学習したもの」と「人権課題に関する考え方」に関する質問項目（小学校用問22～27、中学生用問22～28）のクロス集計の結果を示しています

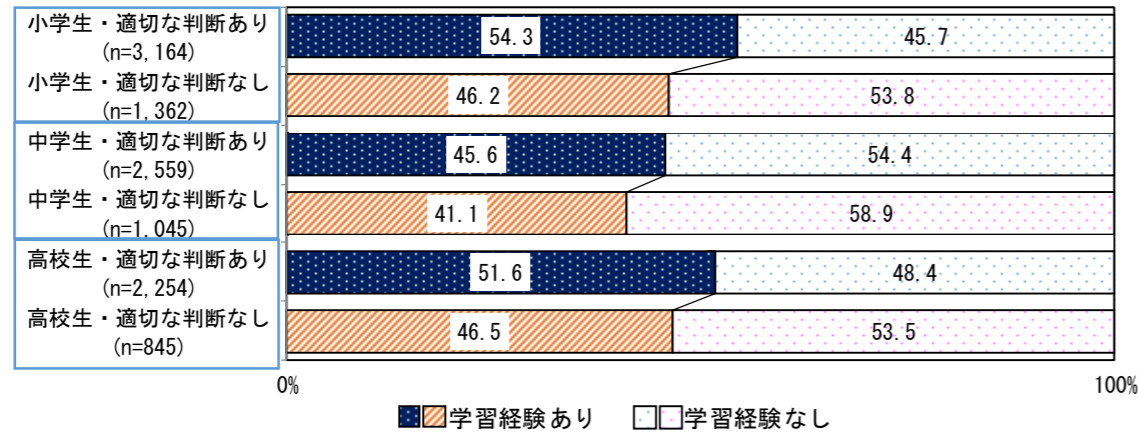
※上側のグラフ（水玉模様）：設問の人権課題（女性、障害者、同和問題、HIV感染者（エイズ患者）・ハンセン病患者、外国人、高齢者、犯罪被害者等）に対して、知識に適切な判断ができていない回答者のうち、該当の人権課題を学習したと答えた人の割合

下側のグラフ（斜線模様）：設問の人権課題に対して、知的に適切な判断ができていない回答者のうち、該当の人権課題を学習したと答えた割合

「食事の用意やせんたく、そうじは女の人がするもの」と言われました。その時どうしますか。

- ア そのとおりだと思わないので、そう伝える
- イ そのとおりだと思わないが、何も言わない
- ウ そんな考え方もあるのかと素直に聞く
- エ そのとおりだと思うので何もしない
- オ わからない
- カ その他

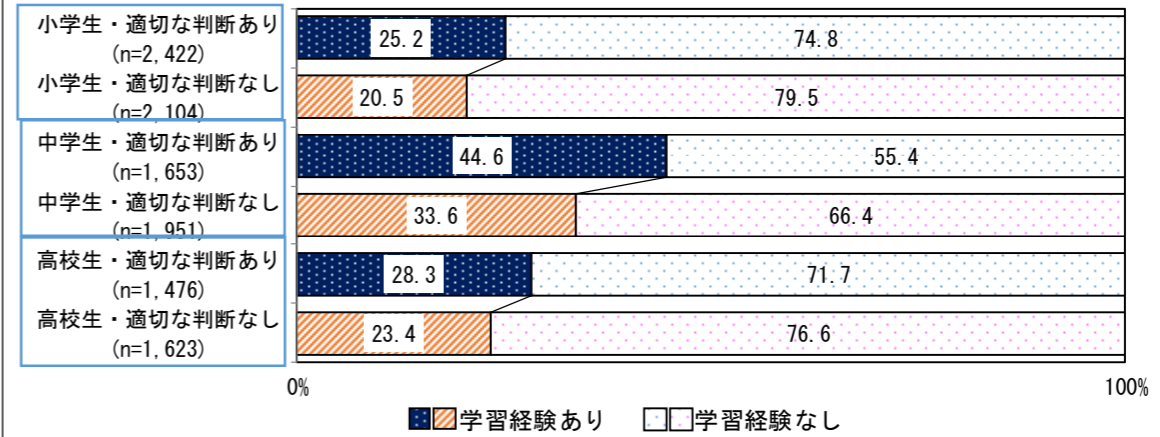
ア、イ（知的に適切な判断）回答の有無別、人権学習経験有の割合



Aさんから、「〇〇町に住んでいる人とは、かかわらない方がいいよ。」と言われました。その時どうしますか。

- ア 住んでいる町のことを理由にかかわらない方がよいと思わないので、そう伝える
- イ そのとおりだと思わないが、何も言わない
- ウ よく知らないで、何も言わない
- エ Aさんのような考え方もあるのかと素直に聞く
- オ Aさんの言うとおりに思うので、何も言わない
- カ わからない
- キ その他

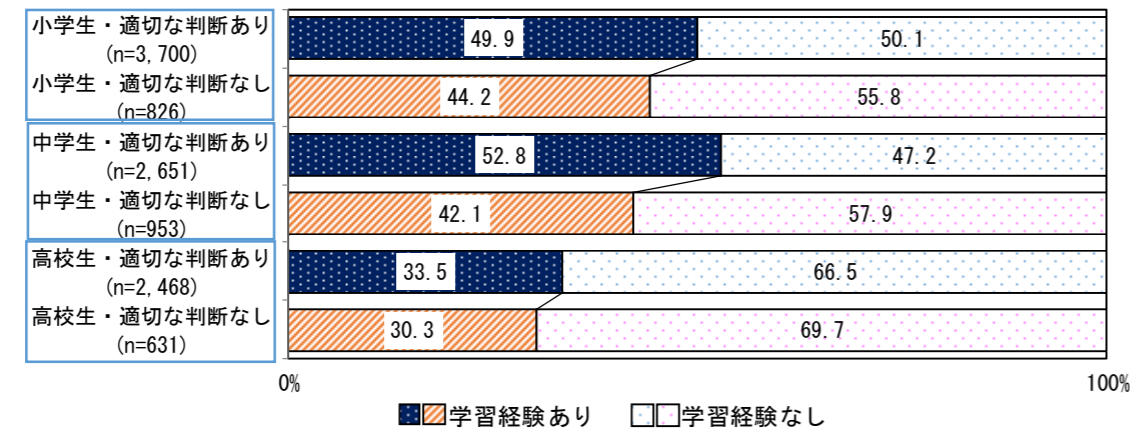
ア、イ（知的に適切な判断）回答の有無別、人権学習経験有の割合



車イスにのった人が、道に段差があって進めなくてこまっています。その時どうしますか。

- ア 声をかけて手伝う
- イ 周りの人に声をかけて、手伝ってもらう
- ウ だれかが手伝えば、自分も手伝う
- エ 気にしながら通り過ぎる
- オ 気にならないので何もしない
- カ わからない
- キ その他

ア、イ、ウ（知的に適切な判断）回答の有無別、人権学習経験有の割合

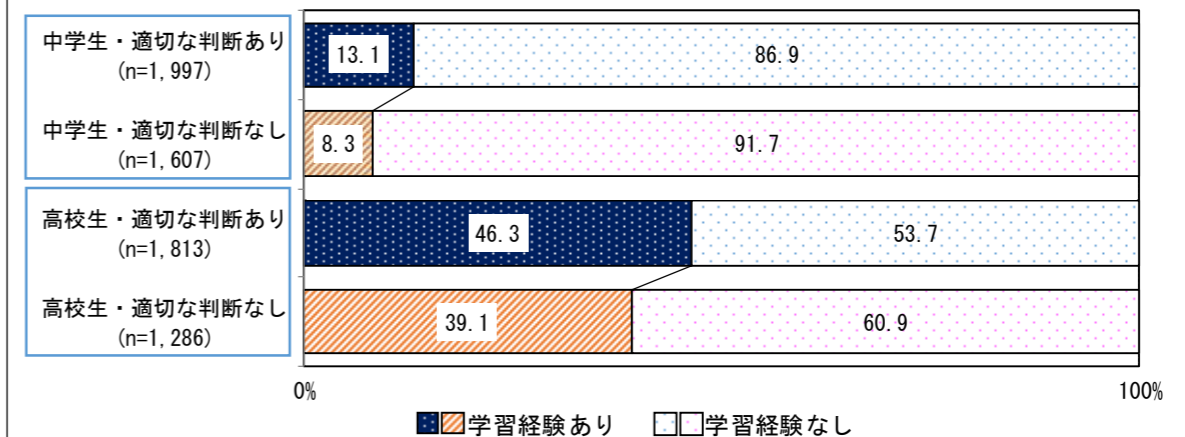


あなたのまわりに、HIV感染者（エイズ患者）やハンセン病回復者の人を避けようとする人がいました。その時どうしますか。

- ア 避ける必要はないと思うので、そう伝える
- イ 避ける必要はないと思うが、何も言わない
- ウ よく知らないで、何も言わない
- エ 避けようとする人もいるのかと思う
- オ そのとおりだと思うので、何も言わない
- カ わからない
- キ その他

※中学生用のみ実施

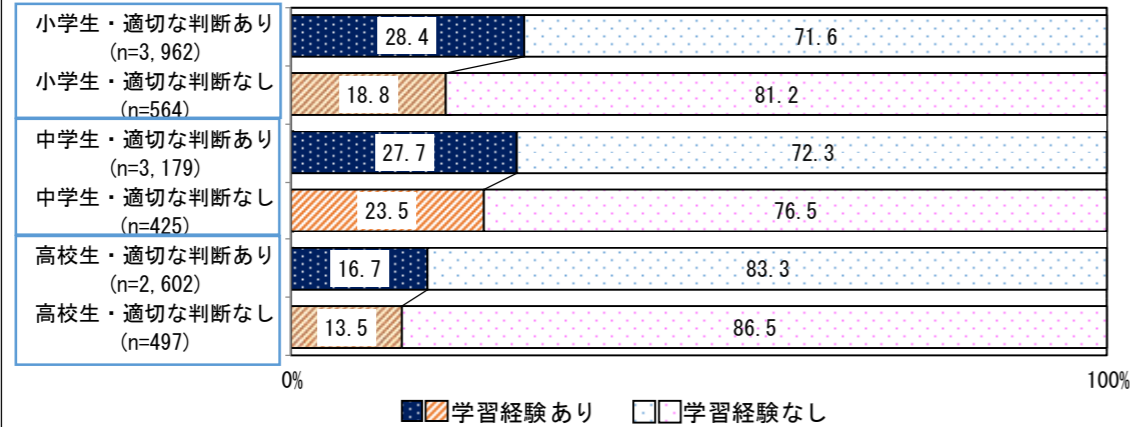
ア、イ（知的に適切な判断）回答の有無別、人権学習経験有の割合



外国の人が、「外国人だから」という理由でアパートを借りることを断られました。このことについて、どのように思いますか。

- ア 外国人だからといって、断られる理由はない
- イ 借りられない外国人がかわいそうだ
- ウ 貸す人の考え方だから仕方がない
- エ わからない
- オ その他

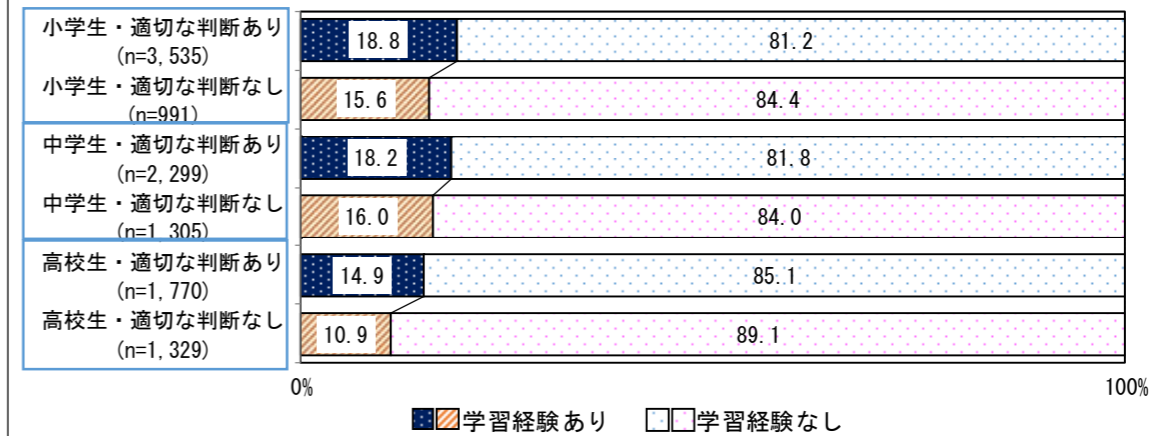
ア、イ（知的に適切な判断）回答の有無別、人権学習経験有の割合



友だちの家族が事件にまきこまれました。数日後、友だちは落ちこんだ様子で登校してきました。周りでは事件について、いろいろなうわさ話をしています。その時どうしますか。

- ア 「元気を出して」と声をかける
- イ 「こまったことがあれば相談に乗るからね」と伝える
- ウ 気になるが、そっとしておく
- エ わからない
- オ その他

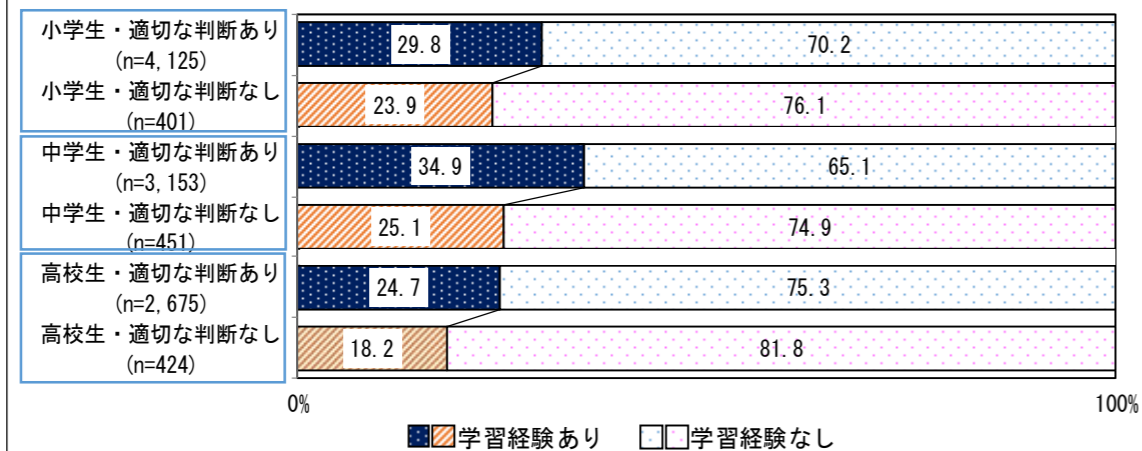
ア、イ（知的に適切な判断）回答の有無別、人権学習経験有の割合



高齢者の方が、電車で高齢者用の優先席にすわれなくてこまっています。近くの席にすわっている時、どうしますか。

- ア 自分の席をゆずる
- イ だれかが席をゆずらなければ、自分の席をゆずる
- ウ 気にしながらそのままにする
- エ わからない
- オ その他

ア、イ（知的に適切な判断）回答の有無別、人権学習経験有の割合



【読み取れる傾向と考察】

- ・人権問題に接した際に、「人権課題を学習をした」と認識している児童生徒が、知的に適切な判断ができている傾向が読み取れる。
- ・他の人権課題と比較して、犯罪被害者等についての知的に適切な判断の回答の割合が小さい。これは、それぞれの校種において、犯罪被害者等についての学習機会の割合が小さいことと関係していると考えられる。

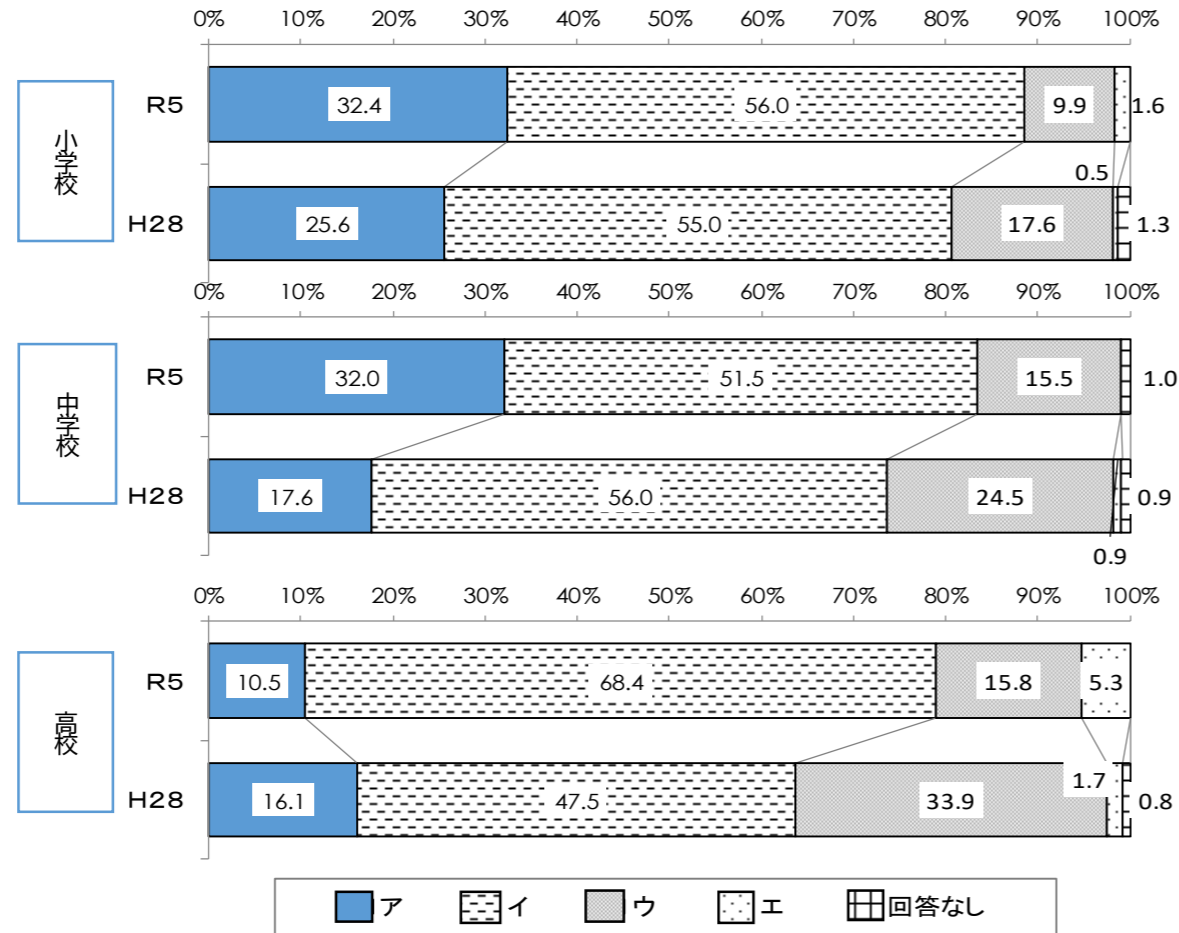
【関連する事業・取組】

- ・人権教育研究指定校事業（人権教育・児童生徒課）
- ・特別支援教育セミナー（教育センター）
- ・いじめ防止対策総合推進事業（人権教育・児童生徒課）
- ・人権教育主任連絡協議会等（人権教育・児童生徒課）
- ・防災教育推進事業（学校安全対策課）
- ・人権学習学校支援事業（人権教育・児童生徒課）
- ・管理職等育成プログラム（教育センター）
- ・若年教員育成プログラム（教育センター）
- ・中堅教諭等資質向上研修（教育センター）
- ・いのちの教育プロジェクト（保健体育課）

学校用

問25 同和問題をはじめとする県民に身近な11の人権課題についての学習の充実に向けた研修を行っていますか。

ア 行っている
 イ どちらかと言えば行っている
 ウ どちらかと言えば行っていない
 エ 行っていない



【読み取れる傾向と考察】

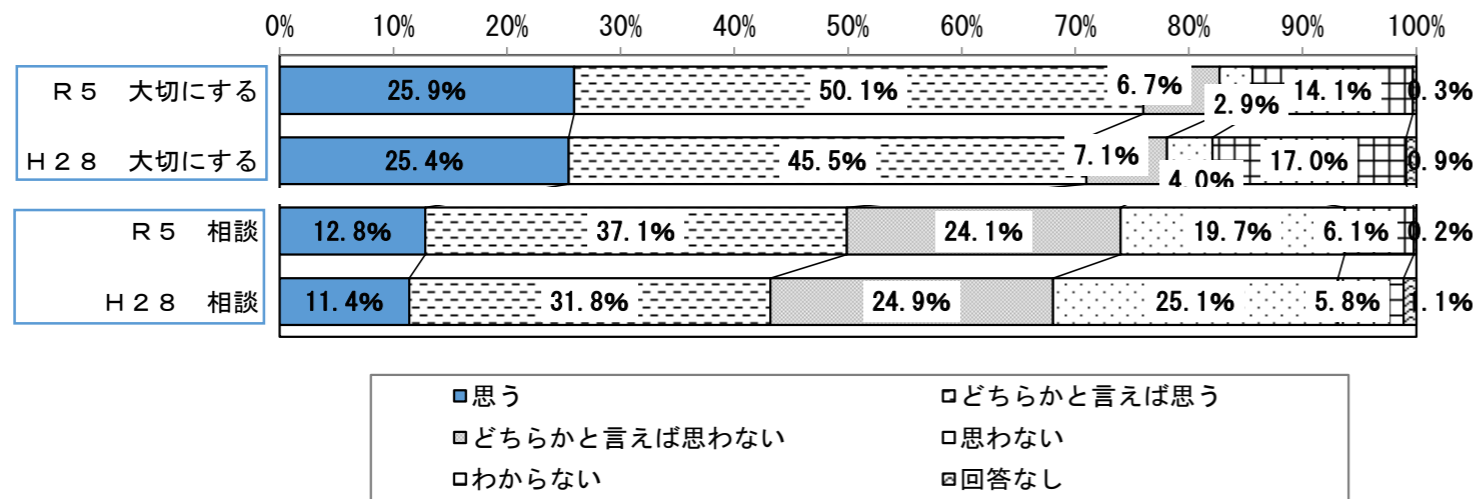
- ・人権課題学習の充実に向けた研修について、前回調査（H28年）より肯定的な回答の割合が増え、小学校と中学校は強肯定にも伸びが見られる。
- ・研修の強肯定の割合の増加を目指すとともに、学習の充実に繋げていく必要がある。
- ・令和4年度末に県内の公立学校を対象に実施した「人権教育・生徒指導に関する取組状況調査」においても「県民に身近な11の人権課題などに関する校内研修を行っている学校は100%であるが、併せて授業研究を実施している学校は、小学校62%、中学校60.2%、高校66%となっており、授業研究を取り入れた研究体制が十分でない状況がある。教科等の授業研究においても、教科のねらいや学習活動、指導上の留意点に人権教育の視点が含まれていることを確認する等、共通認識を図っていく必要がある。
- ・今後も、教科等と人権課題の関連を確認する校内研修の実施と併せて授業研究の充実を図っていく。

【関連する事業・取組】

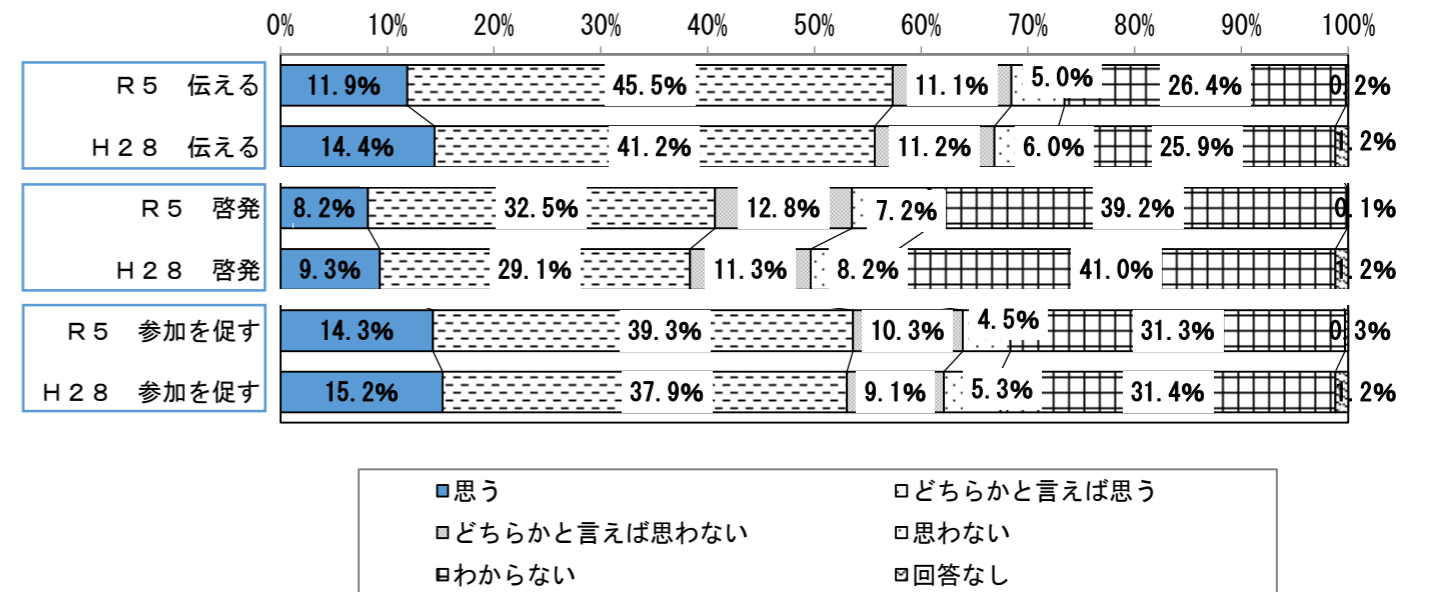
- ・人権教育研究指定校事業（人権教育・児童生徒課）
- ・特別支援教育セミナー（教育センター）
- ・いじめ防止対策総合推進事業（人権教育・児童生徒課）
- ・人権教育主任連絡協議会等（人権教育・児童生徒課）
- ・防災教育推進事業（学校安全対策課）
- ・人権学習学校支援事業（人権教育・児童生徒課）
- ・管理職等育成プログラム（教育センター）
- ・若年教員育成プログラム（教育センター）
- ・中堅教諭等資質向上研修（教育センター）
- ・いのちの教育プロジェクト（保健体育課）

②学校の人権教育の取組と保護者等への発信

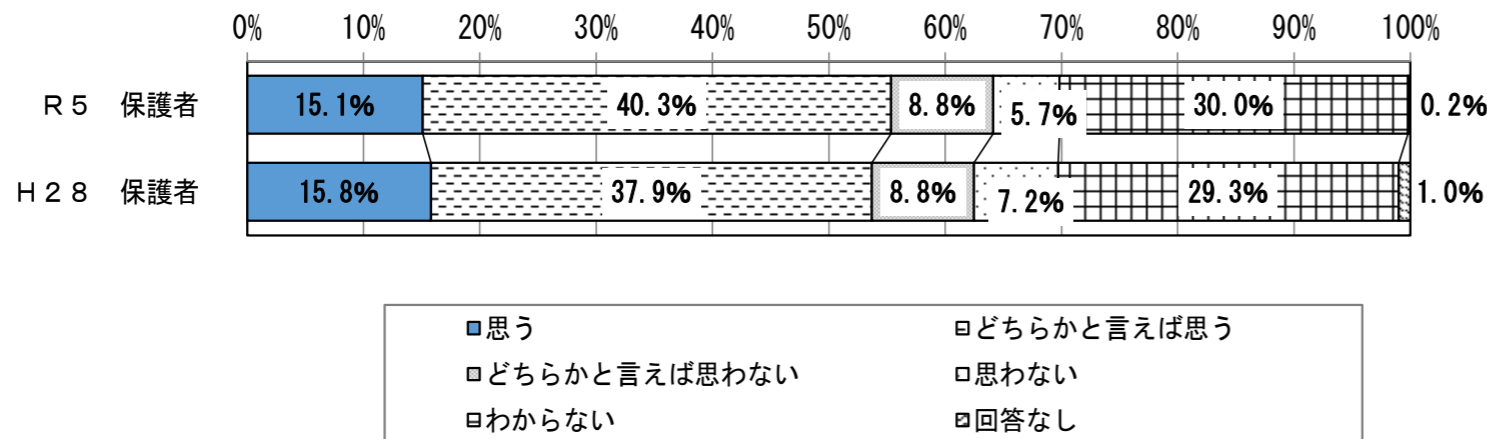
保護者用 問12 学校はお子さんのよさを大切にしていると思いますか
 保護者用 問13 あなたは、学校に子育てや教育等について気軽に相談していると思いますか



保護者用 問10 学校は人権教育の方針や活動内容について、わかりやすく伝えていると思いますか
 保護者用 問15 学校は地域の人々や保護者に対する人権啓発を積極的に行っていると思いますか
 保護者用 問16 学校は地域人材や保護者の教育活動への参加を積極的に促していると思いますか



保護者用 問14 学校がいじめを許さない学校・学級づくりに積極的に取り組んでいると思いますか



【読み取れる傾向と考察】

- ・(問12、13) 肯定的な回答が増加しており、学校の児童生徒一人一人への丁寧な関わりや、教育課題に取り組む姿勢が保護者に伝わっていることが読み取れる。
- ・(問10、15、16) 人権教育の内容や、啓発、教育活動への参加促進については、否定的な回答または、「わからない」という回答の割合が変わらず高い。コロナ禍における活動制限も影響していると考えられるが、今後、保護者への情報発信の充実が求められる。

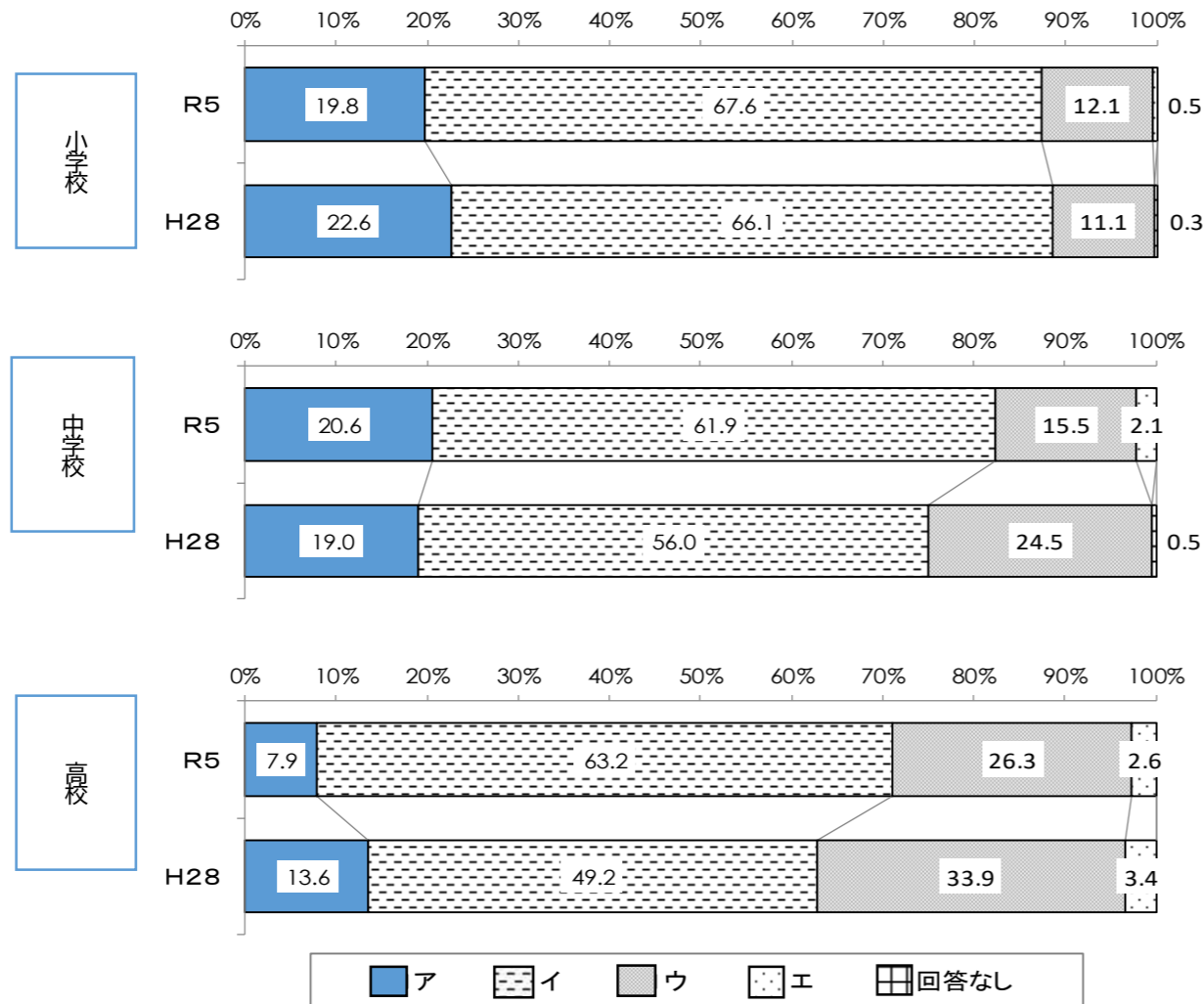
【関連する事業・取組】

- ・PTA 人権教育研修への支援 (人権教育・児童生徒課)
- ・いじめ防止対策総合推進事業 (人権教育・児童生徒課)
- ・人権教育主任連絡協議会等 (人権教育・児童生徒課)

学校用

問30 学校の取組が家庭や地域に“見える”ように情報を発信し、学校、家庭、地域それぞれが連携しながら人権教育を推進する体制を確立していますか。

- ア 確立できている
- イ どちらかと言えば確立できている
- ウ どちらかと言えば確立できていない
- エ 確立できていない



【読み取れる傾向と考察】

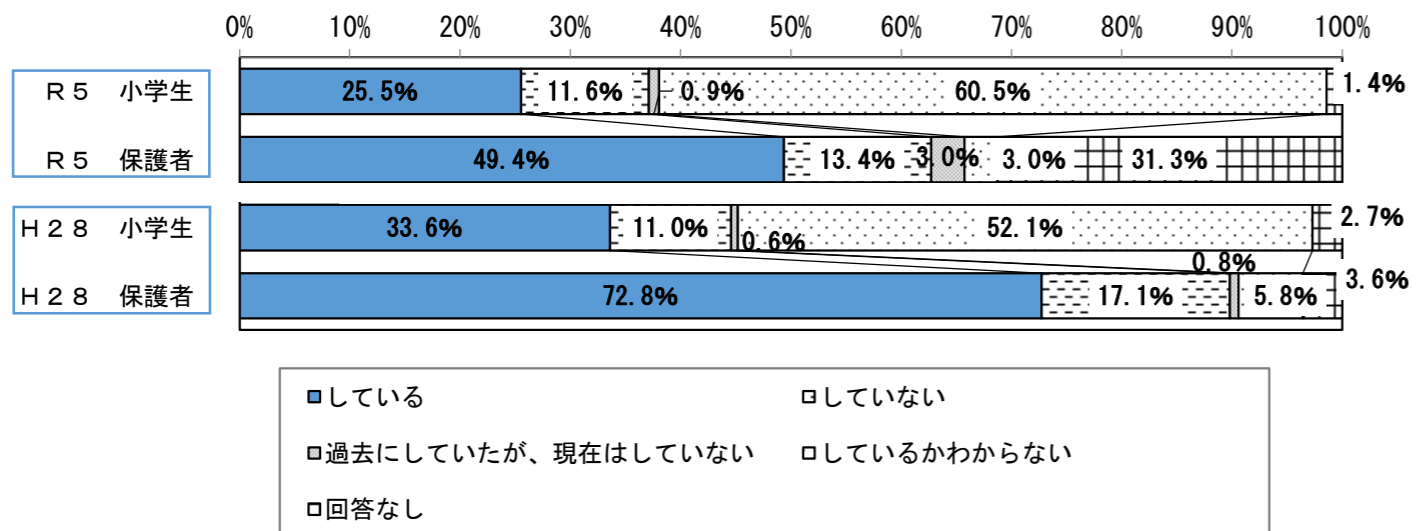
- ・(問30) 学校・家庭・地域との推進体制については、「確立できている」と回答した割合が小学校と高校で減少傾向にある。肯定的な回答は中学校と高校で増加している。
- ・要因としては、コロナ禍で人権参観日や児童生徒の成果発表の機会が少なかったことや、発信の弱さを感じている学校の割合が大きいことが考えられる。
- ・今後も、保護者や地域に向けた学校・学級からの発信の仕方を工夫する必要がある。

【関連する事業・取組】

- ・PTA 人権教育研修への支援 (人権教育・児童生徒課)
- ・いじめ防止対策総合推進事業 (人権教育・児童生徒課)
- ・人権教育主任連絡協議会等 (人権教育・児童生徒課)

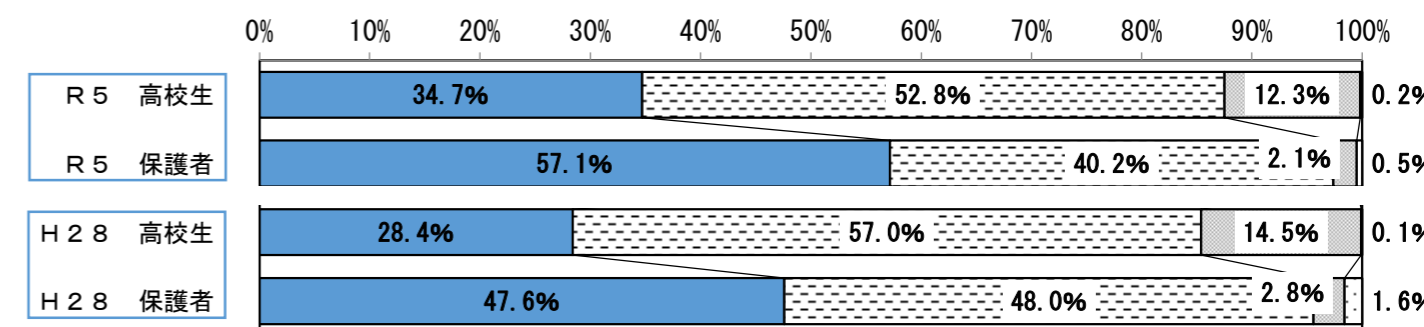
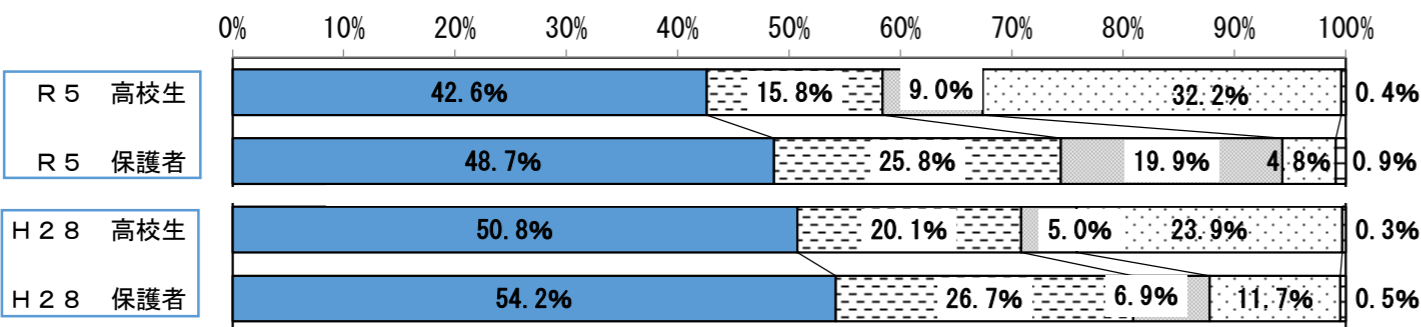
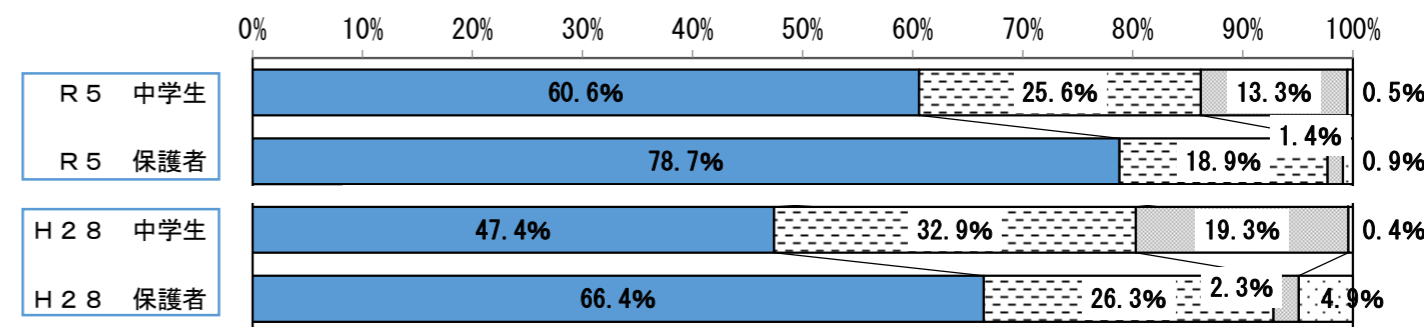
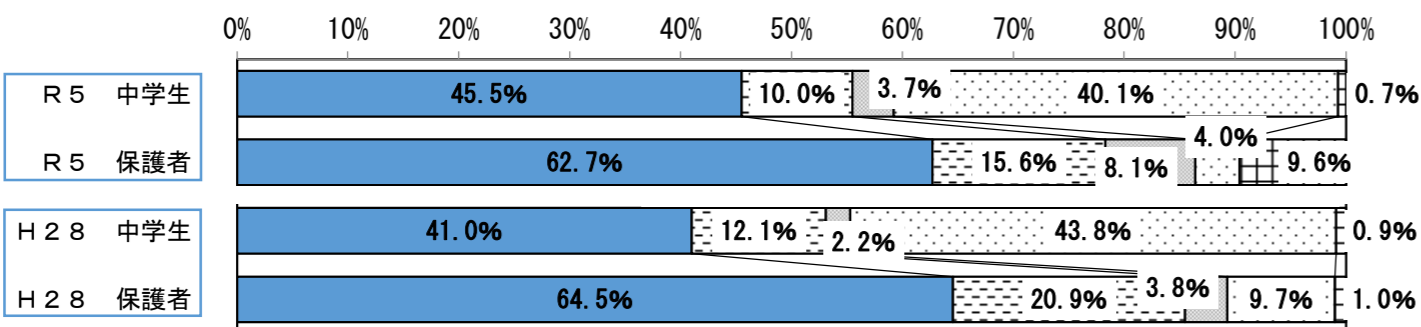
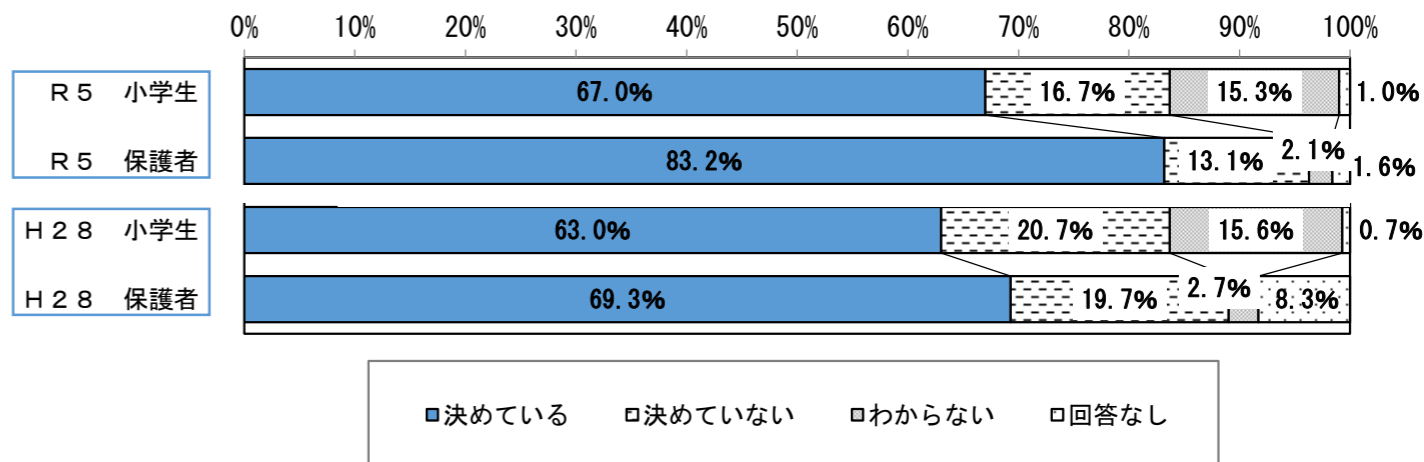
(3) インターネット利用に関するフィルタリング設定やルール決め

小学生用・中高生用 問16 (自分が利用する) インターネット接続機器にフィルタリングをしていますか
 保護者用 問18 (児童生徒が利用する) インターネット接続機器にフィルタリングをしていますか



小学生用・中高生用 問18 携帯電話・スマートフォン、インターネット接続機器を使用する上で、家族と約束事やルールを決めていますか

保護者用 問21 携帯電話・スマートフォン、インターネット接続機器を使用する上で、お子さんとの約束事やルールを決めていますか



【読み取れる傾向と考察】

- ・インターネット接続機器へのフィルタリングについては、小学生と高校生は「している」と回答した割合が減少している。小学生・中学生の保護者は「わからない」の回答が増加し、高校生の保護者は「していない」「過去にしていたが、現在はしていない」の回答の割合が増加しており、児童生徒のネットトラブルへの接触が危惧される。
- ・児童生徒が「わからない」と回答していることに関しては、家庭内でフィルタリング設定について話題にすることや、設定することに対して相談がなされていないのではないかと考えられる。
- ・家族との約束事やルール決めについては、小学生・中学生・高校生で児童生徒、保護者ともに「決めている」と回答した割合が、前回調査と比較して増加しており、特に保護者の割合の増加が顕著である。
- ・学校からの積極的な呼びかけにより、保護者が児童と話し合ってルールづくりをしやすい状況ができていると考えられる。

【関連する事業・取組】

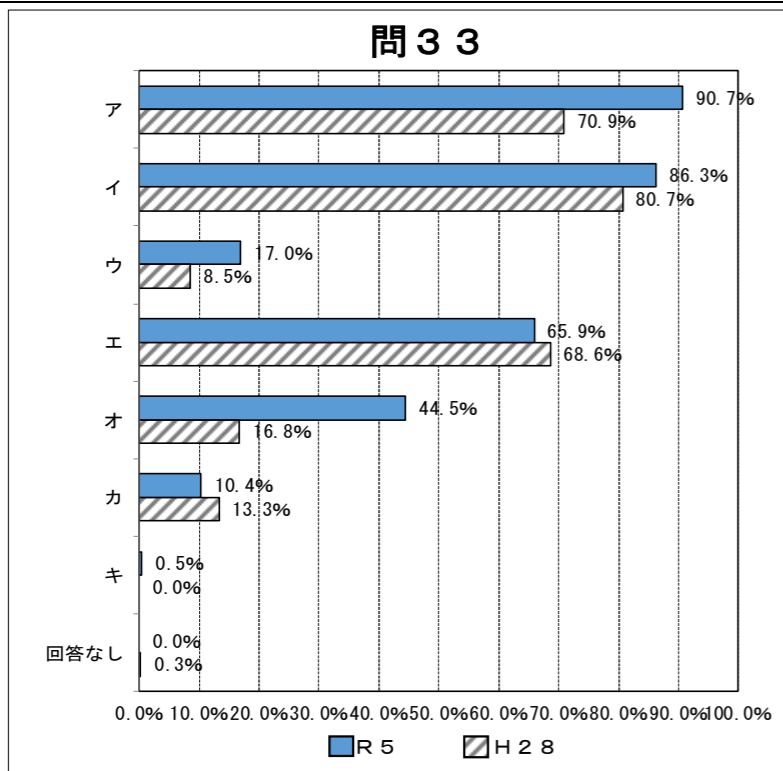
- ・人権学習学校支援事業（人権教育・児童生徒課）
- ・PTA 人権教育研修への支援（人権教育・児童生徒課）
- ・高知縣市町村人権教育・啓発担当者連絡協議会（人権教育・児童生徒課）

問33 児童生徒がインターネット接続機器を安全に使用し、事件やトラブルを防ぐために、どのような取組を行っていますか（複数回答可）

小学校

問33 児童生徒がインターネット接続機器を安全に使用し、事件やトラブルを防ぐために、どのような取組を行っていますか。（複数回答可）

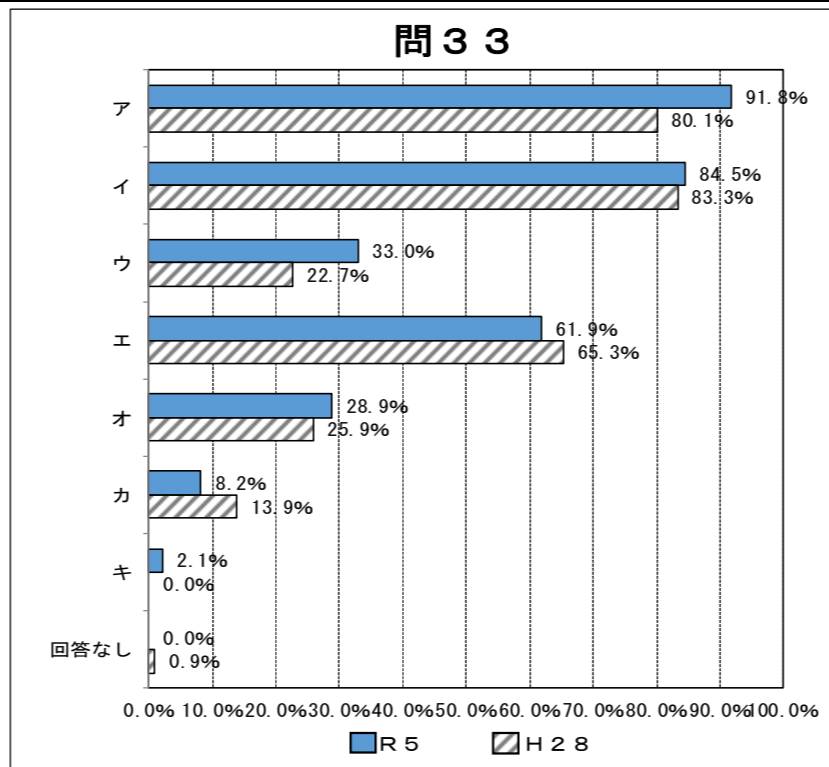
ア 情報モラル教育の推進
 イ 児童生徒がインターネットの危険性や正しい使い方を学ぶ機会の設定
 ウ 児童会や生徒会が中心となって、安全にインターネットを利用するためのルールづくりを行う（例：夜9時以降はインターネットを利用しない等）
 エ PTAや保護者会などを通じて、インターネットの危険性や適正利用について、保護者に対する啓発活動の充実を図る
 オ PTAや各家庭で、インターネット利用についてのルールづくりを行う
 カ 保護者に対して、フィルタリングの設定を徹底する
 キ したことはない



中学校

問33 児童生徒がインターネット接続機器を安全に使用し、事件やトラブルを防ぐために、どのような取組を行っていますか。（複数回答可）

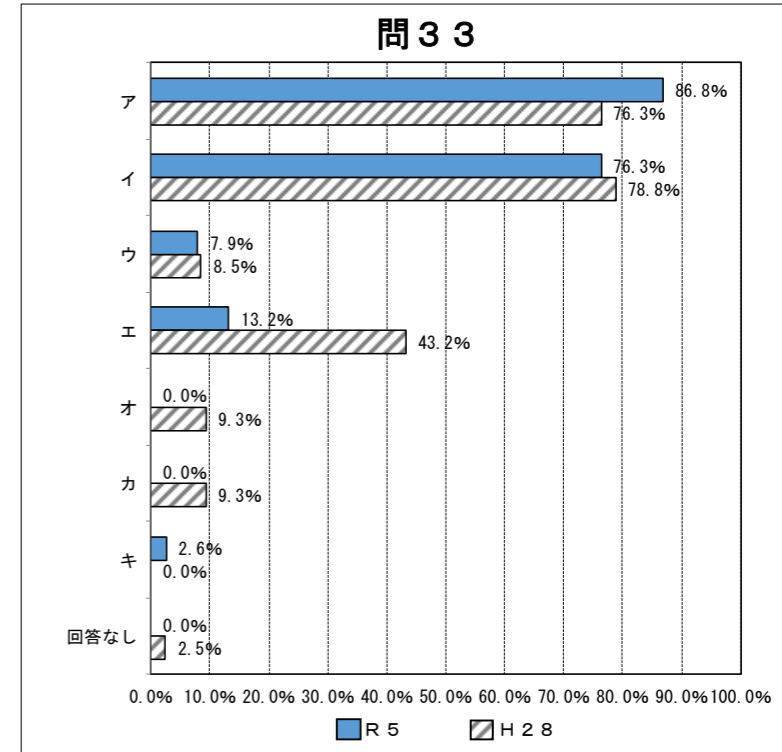
ア 情報モラル教育の推進
 イ 児童生徒がインターネットの危険性や正しい使い方を学ぶ機会の設定
 ウ 児童会や生徒会が中心となって、安全にインターネットを利用するためのルールづくりを行う（例：夜9時以降はインターネットを利用しない等）
 エ PTAや保護者会などを通じて、インターネットの危険性や適正利用について、保護者に対する啓発活動の充実を図る
 オ PTAや各家庭で、インターネット利用についてのルールづくりを行う
 カ 保護者に対して、フィルタリングの設定を徹底する
 キ したことはない



高校

問33 児童生徒がインターネット接続機器を安全に使用し、事件やトラブルを防ぐために、どのような取組を行っていますか。（複数回答可）

ア 情報モラル教育の推進
 イ 児童生徒がインターネットの危険性や正しい使い方を学ぶ機会の設定
 ウ 児童会や生徒会が中心となって、安全にインターネットを利用するためのルールづくりを行う（例：夜9時以降はインターネットを利用しない等）
 エ PTAや保護者会などを通じて、インターネットの危険性や適正利用について、保護者に対する啓発活動の充実を図る
 オ PTAや各家庭で、インターネット利用についてのルールづくりを行う
 カ 保護者に対して、フィルタリングの設定を徹底する
 キ したことはない



【読み取れる傾向と考察】

- ・全学校種で「情報モラル教育の推進」の割合が最も高く、また、小学校・中学校は、児童会・生徒会、PTAや各家庭でのルールづくりを行う取組が増加しており、特に小学校・中学校において、保護者が児童生徒と話し合ってネットのルールを決めている割合の増加という結果に影響している。
- ・一方、フィルタリングの設定の徹底については小学校・中学校は減少しており、高校では取り組んでいる学校はない。このことが児童生徒への質問「インターネット接続機器にフィルタリングをしているか」の回答の割合が減少していることに影響していると考えられる。
- ・SNSに起因する事案による被害を防止するために、フィルタリングやルール、情報モラル等適切なマナーの習得を、学校で児童生徒に知識を学ばせ、その必要性について考えたことを、家庭で確認することが重要であり、それらを促すような働きかけを進めていく必要がある。
- ・ルールの設定については、ルールに対して、保護者が定期的に児童生徒と振り返ったり、現状についての価値付けをしたりする機会を設けて継続していくことが考えられる。

【関連する事業・取組】

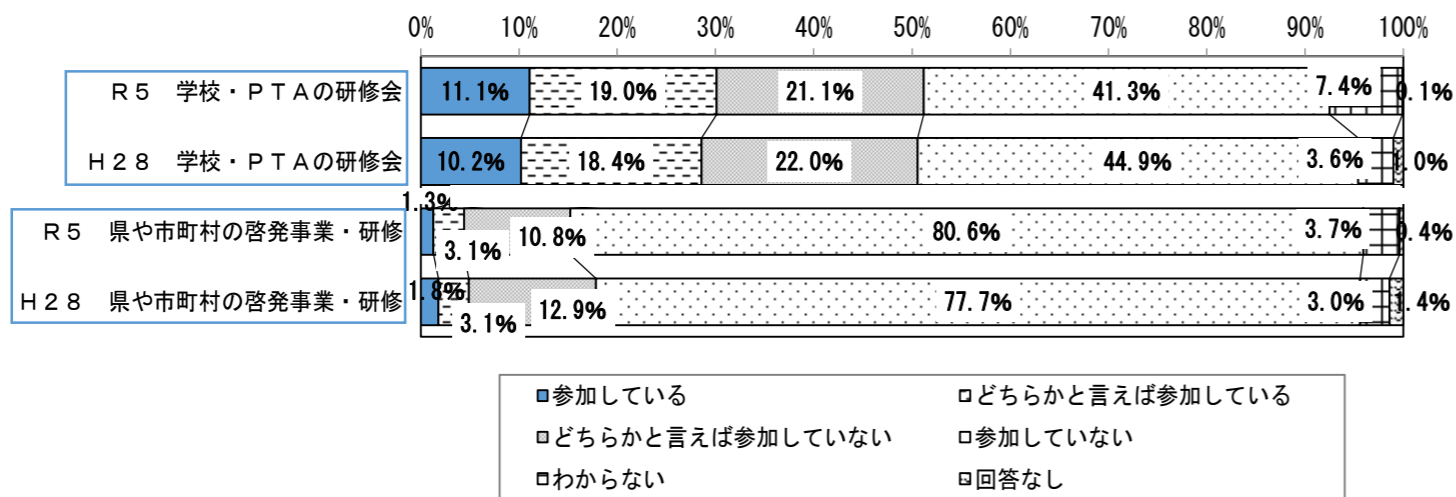
- ・人権学習学校支援事業（人権教育・児童生徒課）
- ・PTA人権教育研修への支援（人権教育・児童生徒課）
- ・高知県市町村人権教育・啓発担当者連絡協議会（人権教育・児童生徒課）

その他 参考データ

①学校や自治体が行う研修への保護者の参加

保護者用

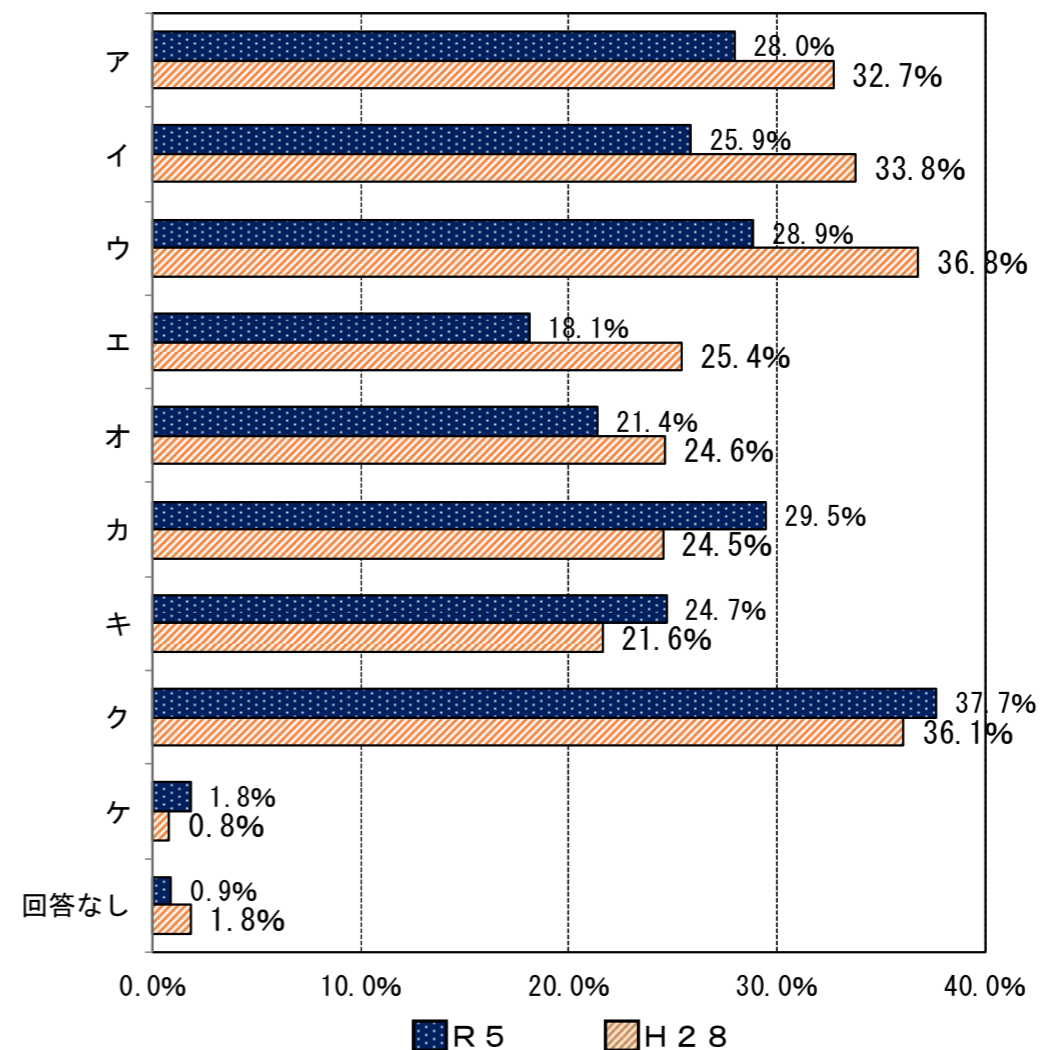
問22 学校やPTAが中心となって行う人権教育に関する研修会に参加していますか
 問24 県や市町村が主催する人権啓発事業や研修に参加していますか



②人権学習を進めるうえで課題となっていること

学校用

問18 人権学習を進めるうえで、課題となっていることは何ですか（複数回答可）



- ア 教職員の共通理解を図り、人権教育主任が中心になって人権教育を組織的に推進すること(人権教育の活動に関する企画・立案、校務分掌間の連絡調整・統括)
- イ 次年度に向けた全体計画、年間指導計画の見直しや改善
- ウ 教科・領域の時間においての人権学習の実施(計画・準備・実施)
- エ 人権学習で使用する視聴覚教材の準備
- オ 校内においての人権課題に関する研修
- カ 授業研究等の実施
- キ 地域や関係機関の人材を活用した教育活動
- ク 家庭や地域への人権啓発
- ケ その他